【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 証券取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成18年 6 月16日

【事業年度】 第71期(自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)

【会社名】 石塚硝子株式会社

【英訳名】 ISHIZUKA GLASS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 山中 昭廣 【本店の所在の場所】 名古屋市昭和区高辻町11番15号

(同所は登記上の本店所在地で実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行

っております。)

【最寄りの連絡場所】 愛知県岩倉市川井町1880番地

【電話番号】 0587-37-2111(代表)

【事務連絡者氏名】執行役員 財務部長 加藤 明【縦覧に供する場所】石塚硝子株式会社 東京支店

(東京都中央区東日本橋二丁目1番5号(石塚ビル内))

石塚硝子株式会社 大阪支店

(大阪市大正区泉尾五丁目13番11号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所

(名古屋市中区栄三丁目3番17号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月		平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月
売上高	(百万円)	46,644	48,332	56,243	56,087	58,593
経常損益	(百万円)	353	318	670	773	982
当期純損益	(百万円)	1,437	259	404	412	547
純資産額	(百万円)	17,397	16,836	18,241	18,856	20,193
総資産額	(百万円)	61,599	63,845	72,846	70,499	70,678
1株当たり純資産額	(円)	491.06	475.68	509.88	535.84	577.93
1株当たり当期純損 益金額	(円)	40.57	7.32	11.26	11.70	15.61
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益金 額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	28.2	26.4	25.0	26.8	28.6
自己資本利益率	(%)	8.26	1.54	2.31	2.22	2.80
株価収益率	(倍)	-	-	20.43	29.06	26.14
営業活動によるキャ ッシュ・フロー	(百万円)	5,252	2,107	2,800	5,921	5,522
投資活動によるキャ ッシュ・フロー	(百万円)	3,972	3,325	6,415	2,626	2,643
財務活動によるキャ ッシュ・フロー	(百万円)	1,716	1,495	3,459	2,848	2,700
現金及び現金同等物 の期末残高	(百万円)	1,357	1,634	1,558	2,005	2,183
従業員数 [外、平均臨時雇用 者数]	(人)	1,155 [333]	1,116 [376]	1,282 [386]	1,242 [359]	1,209 [348]

- (注)1.売上高には消費税等は含まれておりません。
 - 2.潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 - 3.第69期から、1株当たり純資産額、1株当たり当期純損益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

(2)提出会社の経営指標等

回次		第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月		平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月
売上高	(百万円)	43,127	45,133	53,323	53,198	55,687
経常損益	(百万円)	460	155	404	612	621
当期純損益	(百万円)	1,499	362	258	404	411
資本金	(百万円)	5,911	5,911	5,911	5,911	5,911
発行済株式総数	(千株)	36,295	36,295	36,295	36,295	36,295
純資産額	(百万円)	16,101	15,505	16,689	17,244	18,282
総資産額	(百万円)	53,322	54,398	61,871	59,589	57,831
1株当たり純資産額	(円)	443.63	427.66	460.36	483.33	519.53
1株当たり配当額 (うち1株当たり中 間配当額)	(円)	0.00	0.00	4.00 (-)	4.00	5.00 (-)
1株当たり当期純損 益金額	(円)	41.32	9.99	7.13	11.33	11.65
潜在株式調整後 1 株 当たり当期純利益金 額	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	30.2	28.5	27.0	28.9	31.6
自己資本利益率	(%)	9.31	2.34	1.61	2.38	2.31
株価収益率	(倍)	-	-	32.26	30.01	35.02
配当性向	(%)	-	-	56.1	35.3	42.9
従業員数 [外、平均臨時雇用 者数]	(人)	878 [40]	823 [17]	980 [42]	900 [49]	863 [45]

- (注) 1.売上高には消費税等は含まれておりません。
 - 2.潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 - 3.第69期から、1株当たり純資産額、1株当たり当期純損益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に当たっては、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しております。

2【沿革】

文政 2 年11月(西暦1819年)、石塚岩三郎(初代)が長崎でオランダ人からガラス製造技術を習得し、岐阜県可児郡土田村でガラスを製造したことが、連結財務諸表提出会社の始まりであります。

現在では、ガラス壜、ガラス食器、セラミックス製品、プラスチック及び紙容器と分野を拡大し、容器の総合メーカーグループへと飛躍をはかっております。

明治21年11月	2 代石塚文左衛門、名古屋に移住操業
昭和2年1月	3 代石塚岩三郎、現在の本社所在地に工場を新設稼働
昭和2年7月	4 代石塚正信、我が国最初のシーメンス式炉による白素地硝子生産に成功
昭和16年4月	企業整備により有限会社石塚硝子製造所設立
昭和21年12月	石塚硝子株式会社に改組
昭和31年9月	計量法制定に基づく特殊容器製造事業場の指定を通産省より受け、引き続き期間更新し今日に至る
昭和36年7月	名古屋証券取引所に上場
昭和36年10月	岩倉食器工場を新設稼働
昭和37年10月	東京証券取引所に上場
昭和38年1月	岩倉壜工場を新設稼働
昭和44年9月	千代田硝子株式会社へ資本参加
昭和45年4月	ガラス製コップJIS表示許可工場(岩倉工場)の認可
昭和46年11月	ガラスセラミックス(デビトロン・デビトロンメタリック)の開発に成功し、国内外の特許を取得
昭和47年6月	ウイストン株式会社を設立し、プラスチック事業に進出
昭和48年3月	デビトロン・デビトロンメタリック工場を新設稼働
昭和49年11月	消費生活用製品安全法に基づく「炭酸飲料を充填するためのガラス壜製造事業」の登録
昭和51年9月	INTERNATIONAL PAPER CO.(米国)と合弁会社アイピーアイ株式会社を設立し、紙容器事業に進出
昭和53年12月	石塚硝子物流株式会社を設立し、ガラス製品の保管・出荷作業を委託
昭和57年1月	クリスタル食器に進出
昭和58年8月	千代田硝子株式会社が東京アデリア株式会社に商号変更
昭和59年4月	東京工場を新設稼働
昭和59年9月	セラミックス工場を新設稼働
昭和60年5月	石塚硝子物流株式会社が石塚物流サービス株式会社に商号変更
平成2年4月	技能研修センターを開所
平成2年5月	久金属工業株式会社へ資本参加
平成2年9月	東京アデリア株式会社がアデリア株式会社に商号変更
平成8年4月	東京工場にPETボトル工場を新設稼働
平成 8 年10月	石硝運輸株式会社を設立し、貨物運送を委託
平成9年1月	日本パリソン株式会社を設立し、PETボトルプリフォーム事業に進出
平成10年10月	岩倉工場ISO9001の認証取得
平成11年3月	東京工場ISO9001の認証取得
平成11年10月	岩倉工場ISO14001の認証取得
平成12年10月	東京工場ISO14001の認証取得
平成13年 5 月	岩倉工場にPETボトル工場を新設稼働
平成14年 5 月	株式会社アサヒビールパックスと包括的業務提携
平成15年4月	株式会社アサヒビールパックスの発行済株式総数を取得
平成15年6月	株式会社アサヒビールパックスを吸収合併
平成15年9月	本社機構を愛知県岩倉市川井町1880番地に移転

平成17年4月 石塚玻璃(香港)有限公司を中国に設立

3【事業の内容】

当社グループは、当社とその子会社9社及び関連会社3社で構成され、ガラス容器関連製品、他素材容器関連製品、その他の製品の製造販売事業及びそれに付帯する事業を行っております。

当社グループが営んでいる主な事業内容と、当該事業に係る各社の位置づけは、次のとおりであります。

なお、次の3事業は「第5 経理の状況1.(1)連結財務諸表 注記事項」に掲げる事業の種類別セグメント情報の区分と同一であります。

ガラス容器関連事業 主に当社が製造販売しているほか、一部をアデリア(株)経由で販売を行っております。

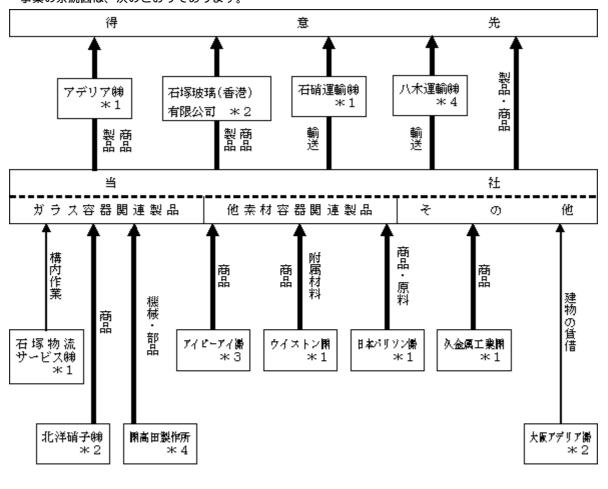
他素材容器関連事業 当社が製造販売しているほか、アイピーアイ(株)、日本パリソン(株)が製造した製品の販売を行って

おります。

その他の事業 当社がセラミックス製品を製造販売しているほか、久金属工業(株)が製造した金属キャップ製品の販

売を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



■ 物の流れ

その他

*1 連結子会社

※ 2 非連結子会社

*3 持分法適用関連会社

※ 4 持分法非適用関連会社

(注)石塚玻璃(香港)有限公司は平成17年4月15日に設立いたしました。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
アデリア株式会社	東京都中央区	100	ガラス容器関連事業	100.0 (50.0)	当社のガラス食器類を販売 当社が事務所を賃借 資金援助あり 役員の兼任…1名
石塚物流サービス株式会社	愛知県岩倉市	10	ガラス容器 関連事業	100.0 (50.0)	当社が構内役務を委託 役員の兼任…1名
ウイストン株式会社	愛知県海部郡蟹 江町	200	他素材容器 関連事業	100.0 (50.0)	当社がプラスチック製品を購入
石硝運輸株式会社	愛知県岩倉市	20	ガラス容器 関連事業	75.0 (25.0)	当社が運送役務を委託 役員の兼任…1名
日本パリソン株式会社	名古屋市昭和区	450	他素材容器 関連事業	51.0 (1.0)	当社がプラスチック製品を購入 当社より土地及び建物を賃貸 資金援助あり
久金属工業株式会社	大阪市西成区	60	その他の事業	55.9 (1.0)	当社が金属キャップ製品を購入
(持分法適用関連会社)					
アイピーアイ株式会社	東京都千代田区	1,100	他素材容器 関連事業	49.0	当社が液体用板紙容器を購入 役員の兼任… 2 名

- (注)1.主要な事業の内容欄には事業の種類別セグメントの名称を記載しております。
 - 2. 日本パリソン株式会社は特定子会社に該当しております。
 - 3. 議決権の所有割合の() は間接所有であり内書であります。
 - 4 . 有価証券届出書または有価証券報告書を提出している会社はありません。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成18年3月20日現在

事業の種類別セグメントの名称 従業員数(人)	
ガラス容器関連事業	846 (184)
他素材容器関連事業	159 (135)
その他の事業	118 (16)
全社(共通)	86 (13)
合計	1,209 (348)

- (注)1.従業員数は、就業人員であります。
 - 2.従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 - 3.全社(共通)として記載されている従業員数は、管理本部及び財務部に属するものであります。ただし、事業の種類別セグメント情報においては、当該部署で発生する費用をその費用の発生により便益を受ける程度に応じ各事業に配賦しております。

(2)提出会社の状況

平成18年3月20日現在

従業員数 (人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
863 (45)	43.4	21.9	6,377

- (注)1.従業員数は就業人員であります。
 - 2. 平均年間給与は税込額であり、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
 - 3.従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 - 4.60才定年制を採用しております。

(3) 労働組合の状況

連結財務諸表提出会社の石塚硝子中央労働組合(ユニオンショップ制)は昭和39年6月に結成され、平成18年3月20日現在、加入者は768名で、平成7年12月12日に結成されたセラミックス産業労働組合連合会に加盟しております。

現在、労使間の事項は健全に処理されており、特記すべきものはありません。

なお、連結子会社に労働組合はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度のわが国経済は、原油を始めとする素材価格の高止まりなどの要因があるなか、企業収益の改善や設備投資の増加、更には雇用情勢の改善による個人消費の回復などにより着実な回復局面で推移いたしました。

かかる状況のなか、当社グループは、当連結会計年度を第2年度とする中期経営計画の着実な達成に向け注力してまいりました。その結果、当連結会計年度の売上高は前連結会計年度比4.5%増の585億9千3百万円となりました。利益面では原油価格の高騰による原燃料等の諸資材価格アップがありましたが、姫路工場におけるA重油からLNGへの燃料転換に加え、岩倉工場におけるA重油・LPGからLNGへの転換の前倒し実施などグループを挙げての徹底的なコスト低減を実行し、経常利益は前連結会計年度比27.1%増の9億8千2百万円、当期純利益は前連結会計年度比32.7%増の5億4千7百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

ガラス容器関連事業

ガラスびんは他素材容器との競合による業界需要の減退に歯止めが掛からないなか、焼酎ブームが踊り場になったことと、昨年の猛暑の反動よりビールびんが減少になったことから、売上高は前連結会計年度比4.4%減となりました。他方、ハウスウェアは貯蔵壜売上が海外からの攻勢により減少しましたが、一般市販品向けと中近東を中心とした輸出が引き続き堅調に推移し、売上高は前連結会計年度比2.6%増となりました。

以上の結果、売上高は前連結会計年度比2.9%減の318億8千5百万円となり、営業利益は前連結会計年度比13.4%減の6億6千9百万円となりました。

他素材容器関連事業

プラスチックは引き続き需要が拡大しPETボトル・PETプリフォームともに伸長し、売上高は前連結会計年度比21.7% 増となりました。紙容器は積極的な販売活動と大手メーカーとの取引の一部復活など、前連結会計年度の不振から回復の兆しが見え、売上高は前連結会計年度比8.7%増となりました。

以上の結果、売上高は前連結会計年度比16.5%増の223億6千9百万円となり、営業利益は前連結会計年度比77.6%増の4億1千8百万円となりました。

その他の事業

アドバンストガラスは高強度ガラスの用途展開が拡大し、また海外での抗菌ガラスも順調に拡販を果たすことができ、売上高は前連結会計年度比64.7%増となりました。機器販売は、新規開発した各種の異物検査機が好評を博し売上に繋がりましたが、PETプリフォーム検査機などは需要が一巡し、売上高は前連結会計年度比32.7%減となりました。

以上の結果、売上高は前連結会計年度比7.2%増の43億3千8百万円となり、営業利益は前連結会計年度比39.2%増の1億2 千6百万円となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1億7千7百万円増加し、21億8千3百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は55億2千2百万円(前連結会計年度比6.7%減)となりました。これは主に、資金増加の要因としましては、税金等調整前当期純利益8億2千6百万円、減価償却費41億2千1百万円、売上債権の減少16億7千1百万円、仕入債務の増加8億4千9百万円等によるものであります。一方、資金減少の主な要因としましては、たな卸資産の増加12億2百万円、割引手形の減少8億2千6百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、26億4千3百万円(前連結会計年度比0.7%増)となりました。これは主に、東京工場での PETボトル・PETプリフォーム用倉庫建設、岩倉・姫路工場でのLNG化工事およびガラスびんの品質向上のための検査 機投資等有形固定資産の取得に伴う支出29億1千8百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、27億円(前連結会計年度比5.2%減)となりました。これは主に、借入金の返済等によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)	前年同期比(%)
ガラス容器関連事業(百万円)	27,098	97.9
他素材容器関連事業(百万円)	17,436	111.0
その他の事業(百万円)	2,637	98.9
合計(百万円)	47,172	102.4

- (注)1.金額は平均販売価格でセグメント間の内部振替前の数値によっております。
 - 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度における商品仕入実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)	前年同期比(%)
ガラス容器関連事業(百万円)	2,829	103.3
他素材容器関連事業(百万円)	7,515	104.9
その他の事業(百万円)	443	337.8
合計(百万円)	10,788	107.5

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 - 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 受注状況

当連結会計年度における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)					
	受注高(百万円) 前年同期比(%) 受注残高(百万円) 前年同期比					
ガラス容器関連事業	25,682	96.3	5,423	96.4		
他素材容器関連事業	15,568	117.6	2,773	107.5		
その他の事業	3,204	122.5	297	101.5		
合計	44,455	104.5	8,494	99.9		

- (注) 1. ガラス容器関連事業の食器のうち、直需専用品は受注生産を行っておりますが、一般品は見込生産を行っております。
 - 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)	前年同期比(%)
ガラス容器関連事業(百万円)	31,885	97.1
他素材容器関連事業(百万円)	22,369	116.5
その他の事業(百万円)	4,338	107.2
合計(百万円)	58,593	104.5

- (注)1.セグメント間の取引については相殺消去しております。
 - 2.最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)		当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
コカ・コーラ ナショナルビバレッジ株式会社	9,456	16.9	12,171	20.8

3.上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

当社グループを取り巻く経営環境は、ガラスびんの需要が減少するなか、原油価格の高騰による原燃料などの諸資材価格アップが加わり、引き続き厳しい状況にあると考えております。このような状況のなか、来72期は中期経営計画の最終年度であり、仕上げの年として以下の方針のもと、当社グループが一体となって収益力の強化と体質改革に取り組んでまいります。

- 1.ガラス容器関連事業では、ガラスびんは、源流から出荷までの全工程で品質確保を徹底することは勿論として、グループを挙げてのコスト低減を図るとともに、需要の減少に向けた生産体制の見直し・再構築を推し進めてまいります。ハウスウェアは、今までも推進してきた業務革新を更に追及し、売上高・コスト形成力・顧客満足度などでの業界のリーダーを目指して展開してまいります。
- 2.他素材容器関連事業では、PETボトル・PETプリフォームにおいて、当社プラスチックカンパニーの生産部門を連結子会社である日本パリソン(株)と一体運営するなどにより抜本的なコスト低減を図るとともに、販売拡大による冬場の操業度のアップによる収益力の向上を進めてまいります。
- 3.その他の事業では、高強度ガラスや抗菌素材においては、更なる用途開発と市場開拓を進めるとともに、当社技術の蓄積から生まれた各種食品検査機においても機器販売のコア製品として受注拡大に努めてまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) ガラスびんの需要について

当社グループのコア事業製品であるガラスびんは、他素材容器との競合等により業界全体として需要が減少し、年々出荷量が落ち込んでおります。当面この傾向が続くものと想定しておりますが、他素材容器への転換が想定を大幅に上回った場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 資材価格の値上げについて

当社グループが製造工程で使用している主要な原燃料について、為替相場及び市況の変動により資材価格が高騰した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 製品の品質について

当社グループは厳格な品質管理のもと製品の出荷を行っております。個々の取引先との規格に従い、全数検査を実施しておりますが、万一賠償問題につながるクレームが発生した場合、損害賠償の負担だけでなく、当社グループへの信用も失うこととなり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 取引先の信用リスクについて

当社グループは多数の取引先と掛売り取引を行っております。当社グループは信用情報の収集、与信限度額の定期的な見直 し等を行い、信用リスクの回避に努めておりますが、倒産のような予期せぬ事態により債権回収に問題が発生した場合、当社 グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 災害による影響について

当社グループは、生産活動が中断しないよう、すべての生産設備に対して定期的な防災点検及び設備保守を行っておりますが、当社グループの生産拠点である岩倉・東京・姫路工場に大規模な地震等の災害が発生し、生産設備に大きな損害が出たり操業停止した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 天候の影響について

当社グループは主に飲料容器を製造販売しておりますが、冷夏などにより売上に大きな影響が生じた場合、業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 固定資産の減損会計について

平成19年3月期より減損会計が適用となります。現在、当社グループにおける影響額を検討中でありますが、減損会計基準の適用により減損損失が発生した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 退職給付債務について

退職給付会計では、退職給付費用等を数理計算により算出しております。割引率等の前提条件が変動した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 繰延税金資産の回収可能性について

税効果会計では、将来の課税所得の予測に基づき繰延税金資産を計上しております。課税所得の実績が予測と大きく乖離し、回収可能額が減額となる場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10)有価証券投資の影響について

当社グループは、取引金融機関、関係会社、重要取引先等の株式を長期保有目的で所有しております。所有株式の価格が大幅に下落した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

技術援助契約

契約会社名	相手方の名称	国名	契約内容	契約期間
	 三光硝子工業株式会社 	韓国	硝子容器・硝子食器の製造 に関する技術供与	平成18年 1 月17日 ~ 平成19年 1 月16日
石塚硝子株式会社	NADIR FIGUEIREDO INDUSTRIA E COMMERCIO S.A.	ブラジル	硝子容器・硝子食器の製造 及び硝子溶解に関する技術 供与	平成17年 2 月28日 ~ 平成21年 2 月27日
	TURKIYE SISE VE CAM FABRIKALARI A.S.	トルコ	 硝子容器の製造に関する技 術供与	平成16年 6 月18日 ~ 平成18年 6 月17日

(注)上記の技術援助契約についてはロイヤリティを受け取っております。

6【研究開発活動】

当連結会計年度における事業の種類別セグメントごとの研究開発活動は次のとおりであります。

ガラス容器関連事業

場分野においては、ガラス組成等の基礎的研究、シーズ開発とその実用化及び各種コーティング技術の開発は当社テクニカルカンパニー技術開発部が主管しております。当連結会計年度においては、数年来開発に注力してまいりました「真空を利用した新しい容器システム」の開発を完了し、酒ワンカップ用として採用を得ることができ、ユーザー及び一般消費者に好評を得ております。

食器分野においては、シーズ開発はテクニカルカンパニー技術開発部が担当しております。新商品開発に関しては、ハウスウェアカンパニー内の商品企画グループと技術グループが連携をとりながら、消費者ニーズを先取りした企画とそれを可能にする実用技術の開発にあたっております。当連結会計年度では、ユーザーのニーズに合致した「機能性テーブルウェア」を開発提案し、採用を得ることができました。

当連結会計年度中に支出した研究開発費は、2億4百万円であります。

他素材容器関連事業

プラスチック容器分野においては、PET容器市場における変化の激しいニーズに対応すべく、プラスチックカンパニーの開発グループとテクニカルカンパニー技術開発部において各種の技術開発を行っております。当連結会計年度では、前連結会計年度に引き続き、PETボトル用の多層バリアシステムの開発に注力し、リサイクル性・ガスバリア性ともに従来製品を越える酸素バリアシステムの実用化に成功いたしました。

当連結会計年度中に支出した研究開発費は、1億7千8百万円であります。

その他の事業

ガラス系抗菌剤「イオンピュア」に関しては、当社アドバンストガラスカンパニーR&Dが、ニーズの多様化や海外市場への 展開に対応した基本機能の向上と多機能製品の開発に注力いたしております。また高強度ガラスの性能向上と用途展開に注力し た結果、IT機器へ本格採用を頂き、売上及び利益の拡大に寄与することができました。引き続き既存シーズの用途開発と新規 シーズ開発に注力いたします。

またテクニカルカンパニーの設備開発部門では、ガラス及びプラスチック容器製造に関わる製品ハンドリングと画像処理技術を活かし、ガラス製品検査機、PETボトル検査器、プリフォーム検査機等を開発、商品化しております。さらに食品分野の異物検査器も、市場の多様なニーズに対応した結果、製品の販売実績をあげることができました。

当連結会計年度中に支出した研究開発費は、2億1百万円であります。

当連結会計年度中に当社グループが支出した研究開発費は、合計で5億8千4百万円であります。

(注)金額には消費税等は含まれておりません。

7 【財政状態及び経営成績の分析】

当社グループに関する財政状態及び経営成績の分析は主として連結財務諸表に基づいて分析したものです。

(1) 財政状態

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1億7千9百万円増加し、706億7千8百万円となりました。 資産の部

資産の部では設備投資の抑制等により、有形固定資産は前連結会計年度末に比べ19億9千万円減少しましたが、一方、株式市場の回復等により投資有価証券は16億7千3百万円増加し、資産合計は前連結会計年度末に比べ1億7千9百万円増加し、706億7千8百万円となりました。

負債の部

負債の部では資金調達の安定化を計るため、短期借入金の一部を社債にシフトいたしました。また、借入金の返済を進めた結果、有利子負債は前連結会計年度末に比べ22億7千9百万円減少し、負債合計は前連結会計年度末に比べ13億3千9百万円減少し、480億9千1百万円となりました。

資本の部

資本の部ではその他有価証券評価差額金が前連結会計年度末に比べ10億1千1百万円増加いたしました。一方、自己株式の取得による自己資本の減少がありましたが、資本合計は前連結会計年度末に比べ13億3千7百万円増加の201億9千3百万円となりました。また、自己資本比率は28.6%で前連結会計年度末に比べ1.8ポイント上昇し、1株当たり純資産額は577円93銭と42円09銭増加いたしました。

(2)経営成績の分析

経営成績は売上高585億9千3百万円、経常利益9億8千2百万円、当期純利益5億4千7百万円となりました。前連結会計年度と比較すると、売上高は4.5%増加、経常利益は27.1%増加、当期純利益は32.7%の増加となりました。

売上高

ガラスびんの需要が引き続き減少しましたが、PETボトル・PETプリフォームは好調な需要を背景に堅調に伸長し、紙容器も前年度の不振から回復を果たし、売上高は前連結会計年度比4.5%増の585億9千3百万円となりました。

売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は設備投資の抑制を始めとして、グループを挙げてコスト削減を徹底いたしましたが、原燃料を始めとする諸資材価格のアップ等により前連結会計年度比4.7%増の488億3千5百万円となりました。その結果、売上総利益は97億5千8百万円と前連結会計年度に比べ3億1千4百万円増加しましたが、売上総利益率は16.7%と、0.1ポイント低下いたしました。

販売費及び一般管理費は85億3千5百万円となりました。その結果、営業利益は12億2千3百万円と前連結会計年度に比べ1億8百万円増加し、売上高営業利益率は2.1%と、0.1ポイント改善いたしました。

営業外損益

営業外収益は前連結会計年度と比較して43.5%増加し3億1千5百万円となりました。これは主に持分法による投資利益が9千1百万円増加したことによるものであります。営業外費用は前連結会計年度と比較して1.0%減少し5億5千6百万円となりました。その結果、経常利益は9億8千2百万円と前連結会計年度に比べ2億9百万円増加し、売上高経常利益率は1.7%と、0.3ポイント改善いたしました。

特別損益

特別利益は投資有価証券売却益およびデリバティブ評価益等により3億1千8百万円となりました。特別損失は財務体質の 改善を図るための設備の除却損等により4億7千5百万円となりました。

当期純利益

当期純利益は前連結会計年度と比較して32.7%増加の5億4千7百万円となりました。また、自己資本利益率は2.80%、1株当たり当期純利益は15円61銭となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度は全体で17億8千2百万円の設備投資を実施いたしました。

事業の種類別セグメントごとの設備投資(金型9億1百万円を含まない)を示すと、次のとおりであります。

ガラス容器関連事業においては、岩倉・姫路でのLNG化工事、ガラスびんの品質向上のための検査機投資などを中心に9億3 百万円の設備投資を実施いたしました。

他素材容器関連事業においては、東京工場でのPET倉庫建設を中心に8億4千1百万円の設備投資を実施いたしました。 その他の事業においては、設備の維持更新を中心に3千7百万円の設備投資を実施いたしました。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) 提出会社

平成18年3月20日現在

	事業の種類	帳簿価額(百万円)						
事業所名 (所在地)	事業の種類 別セグメントの名称	設備の内容	建物及び 構築物	機械装置 及び運搬 具	土地 (面積㎡)	その他	合計	従業 員数 (人)
岩倉工場	ガラス容器 関連事業	壜・食器生産 設備	2,494	3,329	5,679 (139,541)	972	12,476	430 [10]
(愛知県岩倉市)	他素材容器 関連事業	プラスチック 容器生産設備	952	536	418 (10,274)	32	1,940	26 [-]
東京丁場	ガラス容器 関連事業	壜生産設備	663	600	1,648 (88,170)	86	2,999	46 [-]
(茨城県猿島郡境町)	他素材容器 関連事業	プラスチック 容器生産設備	2,527	607	559 (29,928)	102	3,796	9 [3]
姫路工場 (兵庫県姫路市)	ガラス容器 関連事業	壜生産設備	303	1,856	- (-)	222	2,381	158 [13]

(2) 国内子会社

平成18年3月20日現在

		事業の活料			帳簿個	西額 (百万	円)	VA 200	
会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類 別セグメントの名称	設備の 内容	建物及び 構築物	機械装 置及び 運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	従業 員数 (人)
アデリア(株)	本社 (東京都中央区)	ガラス容器 関連事業	本社ビル	400	0	786 (288)	2	1,188	36 [-]
ウイストン (株)	本社 (愛知県海部郡蟹 江町)	他素材容器 関連事業	生産設備	115	127	224 (3,817)	18	486	43 [51]
日本パリソン	東京工場 (茨城県猿島郡境 町)	他素材容器	生産設備	297	1,764	(-)	131	2,193	57 [78]
(株)	岩倉工場 (愛知県岩倉市)	関連事業	工注政開	59	849	- (-)	35	944	20 [15]
久金属工業	本社 (大阪市西成区)	その他の 事業	生産設備	96	27	729 (6,805)	17	870	43 [9]
(株)	滋賀工場 (滋賀県甲賀市)	その他の 事業	生産設備	49	51	191 (36,920)	10	301	34 [-]

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

- (注) 1.帳簿価額のうちその他は、工具、器具及び備品並びに建設仮勘定の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。
 - 2.従業員数の[]は臨時従業員数を外書してあります。
 - 3. 姫路工場の土地、建物及び構築物の一部をアサヒビール株式会社より賃借しております。
 - 4.日本パリソン株式会社は建物、構築物、機械装置及びその他の一部並びに土地を提出会社から賃借しております。
 - 5.主要な賃借設備は以下のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	事業の種類別セ グメントの名称	年間賃借料 (百万円)	賃借設備の内容
石塚硝子(株)	岩倉工場 (愛知県岩倉市)	ガラス容器	40	コージェネレーションシステム
10-381月丁(1木)	姫路工場 (兵庫県姫路市)	関連事業	171	壜生産設備他
日本パリソン(株)	東京工場 (茨城県猿島郡境町)	他素材容器	960	PETボトル生産設備他
ロ本ハックノ(株)	岩倉工場 (愛知県岩倉市)	関連事業	164	「 L I かいルエ生故権心

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、改修計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

会社名		事業の種類		投資予	定金額	資金調	着手及び完	了予定年月	完成後の
事業所名	所在地	別セグメン トの名称	設備の内容	総額 (百万円)	既支払額 (百万円)	達方法	着手	完了	増加能力
		ガラス容器関連事業	品質情報シ ステム及び 検査機導入	220	1	借入金	平成18年 12月	平成19年 3 月	品質改善
当社 岩倉工場	愛知県岩倉市		食器炉定期 改修	195	ı	借入金	平成18年 7月	平成18年 8 月	維持更新
		その他	R & D セン ター建設	300	1	借入金	平成18年 7月	平成19年 2月	研究開発
日本パリソン(株)	茨城県猿島郡		プラスチッ ク容器結晶 化装置増強	200	-	自己資金	平成18年 6 月	平成18年 9月	加工能力 増加 維持更新
東京工場	境町	他素材容器関連事業	プラスチッ ク容器生産	200	1	自己資金	平成18年 4月	平成18年 12月	維持更新
日本パリソン (株) 岩倉工場	愛知県岩倉市		設備改善	100	-	自己資金	平成18年 4月	平成18年 12月	維持更新

(2) 重要な設備の除却等 該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	会社が発行する株式の総数(株)
普通株式	140,000,000
計	140,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成18年3月20日)	提出日現在発行数(株) (平成18年6月16日)	上場証券取引所名又 は登録証券業協会名	内容
普通株式	36,295,543	36,295,543	東京・名古屋各証券取 引所各市場第一部	-
計	36,295,543	36,295,543	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成15年7月23日 (注)1	-	36,295	-	5,911	1,957	2,955
平成15年 6 月21日 (注)2	-	36,295	-	5,911	2	2,957

- (注) 1. 旧商法第289条第 2 項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金へ振り替えたものであります。なお、年月日は債権者保護手続き完了の日であります。
 - 2.株式会社アサヒビールパックスを吸収合併したことによる増加であります。

(4)【所有者別状況】

平成18年3月20日現在

								1 132 10 7 3 7)=° 170 1
	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								兴二十 洪
区分	政府及び 地方公共	金融機関 証券会社	証券会社	その他の	外国	外国法人等個人その		計	単元未満 株式の状
	団体	立 附为 (茂 (天)	証が云社	法人	個人以外	個人	他	пІ	況(株)
株主数 (人)	-	42	21	97	32	1	2,883	3,076	-
所有株式数 (単元)	-	16,060	264	7,279	1,431	2	10,874	35,910	385,543
所有株式数 の割合 (%)	-	44.72	0.74	20.27	3.98	0.01	30.28	100.00	-

- (注) 1. 自己株式は「個人その他」に1,106単元、「単元未満株式の状況」に427株が含まれております。なお、自己株式 1,106,427株は株主名簿記載上の株式数であり、平成18年3月20日現在の実保有株式数は1,105,427株であります。
 - 2. 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

(5)【大株主の状況】

平成18年3月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号	2,195	6.04
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町一丁目 1番5号	1,722	4.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	1,647	4.53
第一生命保険相互会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	1,500	4.13
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番 3 号	1,303	3.58
石塚芳三	名古屋市東区	1,236	3.40
旭硝子株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番 1 号	1,210	3.33
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号晴海 アイランドトリトンスクエアオフィス タワーZ棟	1,162	3.20
株式会社損害保険ジャパン	東京都新宿区西新宿一丁目26番1号	1,105	3.04
株式会社みずほコーポレート銀行	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号	893	2.46
計		13,974	38.50

- (注)1.当該基準日後の大株主の異動について当社が把握しているものはありません。
 - 2.株式会社UFJ銀行は平成18年1月1日に株式会社東京三菱銀行と合併し、「株式会社三菱東京UFJ銀行」となりました。
 - 3.明治安田生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、第一生命保険相互会社及び株式会社みずほコーポレート銀行は全て以下の常任代理人を置いております。

常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社

住所 東京都中央区晴海一丁目8番12号晴海アイランドトリトンスクエアオフィスタワー Z 棟

(6)【議決権の状況】

【発行済株式】

平成18年3月20日現在

			十成10年3月20日現在
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
	普通株式		
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 1,105,000	-	-
	(相互保有株式)445,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,360,000	34,357	-
単元未満株式	普通株式 385,543	-	1単元 (1,000株)未 満の株式
発行済株式総数	36,295,543	-	-
総株主の議決権	-	34,357	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。また、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない普通株式が1,000株(議決権1個)あります。

平成18年3月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所 有株式数 (株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対す る所有株式 数の割合 (%)
(自己保有株式)					
石塚硝子株式会社	名古屋市昭和区高辻町11番15号	1,105,000	-	1,105,000	3.04
(相互保有株式)					
アデリア株式会社	東京都中央区東日本橋二丁目1番5号	243,000	-	243,000	0.66
石硝運輸株式会社	愛知県岩倉市川井町1880番地	150,000	-	150,000	0.41
石塚物流サービス株式会社	愛知県岩倉市川井町1880番地	50,000	-	50,000	0.13
大阪アデリア株式会社	大阪市大正区泉尾五丁目13番11号	2,000	-	2,000	0.00
(相互保有株式計)		445,000	-	445,000	
計	-	1,550,000	-	1,550,000	4.27

⁽注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に所有していない株式が1,000株(議決権1個)あります。なお、当該株式数は「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の株式数の中に含まれております。

(7) 【ストックオプション制度の内容】 該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

(1) 【定時総会決議又は取締役会決議による自己株式の買受け等の状況】

【前決議期間における自己株式の取得等の状況】

【株式の種類】 普通株式

イ【定時総会決議による買受けの状況】

該当事項はありません。

ロ【子会社からの買受けの状況】 該当事項はありません。

八【取締役会決議による買受けの状況】

平成18年6月16日現在

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会での決議状況 (平成17年8月3日決議)	100,000	32,600,000
前決議期間における取得自己株式	100,000	32,600,000
残存決議株式数及び価額の総額	-	-
未行使割合(%)	-	-

二【取得自己株式の処理状況】 該当事項はありません。

ホ【自己株式の保有状況】

平成18年6月16日現在

区分	株式数(株)
保有自己株式数	1,019,000

【当定時株主総会における自己株式取得に係る決議状況】

平成18年6月16日現在

区分	株式の種類	株式数(株)	価額の総額(円)
自己株式取得に係る決議	-	-	-

- (注)「当社は旧商法第211条 / 3 第 1 項第 2 号の規定により、取締役会の決議をもって自己株式を買受けることができる。」旨を 定款に定めております。
 - (2) 【資本減少、定款の定めによる利益による消却又は償還株式の消却に係る自己株式の買受け等の状況】 【前決議期間における自己株式の買受け等の状況】 該当事項はありません。

【当定時株主総会における自己株式取得に係る決議状況等】 該当事項はありません。

3【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、収益状況に対応した配当を行うことを基本としておりますが、何よりも先ず安定的な配当の継続を重要な方針としております。内部留保につきましては、財務体質の強化を進めるとともに内部留保の充実を図り堅実な経営基盤の確保に努めてまいります。

上記の方針に基づき、当期の利益配当金につきましては、前期比1円増額し1株当たり5円の配当を実施することを決定いたしました。この結果、当期の配当性向は42.9%となりました。

4【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第67期	第68期	第69期	第70期	第71期
決算年月	平成14年3月	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月
最高(円)	242	212	249	363	460
最低(円)	125	127	146	201	277

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成17年10月	平成17年11月	平成17年12月	平成18年1月	平成18年2月	平成18年3月
最高(円)	432	405	419	447	460	424
最低(円)	346	363	393	398	383	375

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏	名	生年月日		略歴	所有株式数 (千株)
					昭和31年4月	当社入社	
					昭和34年5月	取締役就任	
取締役会長		7 IP	** —	四年 6 年 4 日 6 日 4	昭和38年5月	常務取締役就任	4 000
代表取締役		白琢	芳三	昭和6年1月8日生	昭和43年5月	取締役副社長就任	1,236
					昭和50年5月	取締役社長就任	
					平成16年6月	取締役会長就任(現任)	
					昭和44年3月	当社入社	
					平成5年3月	岩倉工場長	
取締役社長		١			平成5年6月	取締役就任	
代表取締役		山中	昭廣	昭和22年3月7日生	平成11年6月	常務取締役就任	17
					 平成14年3月	ガラスびんカンパニー社長	
					平成16年 6 月	取締役社長就任(現任)	
					昭和39年3月	当社入社	
						管理本部付專任部長	
					平成9年6月		
						執行役員ハウスウェアカンパニー社長	
						石塚物流サービス株式会社代表取締役就任	
					1 12010 1 373	(現任)	
常務取締役	ハウスウェア カンパニー社	内田	敏男	 昭和19年6月7日生	平成16年6日		13
執行役員	長	гэщ	400			石硝運輸株式会社代表取締役就任(現任)	
						大阪アデリア株式会社代表取締役就任	
					T-13% 10 4 0 73	(現任)	
					平成16年6月		
					T-13% 10 4 0 73	一社長就任(現任)	
					亚成17年 <i>1</i> 日	石塚玻璃(香港)有限公司董事長就任(現任)	
					昭和47年4月		
						同行明大前支店長	
						同行融資部参事役	
│取締役 │執行役員	管理本部長	杉	一彦	昭和22年8月23日生	平成14年9月		3
						コセスセ 執行役員経営企画部長	
						取締役兼執行役員管理本部長就任(現任)	
						株式会社富士銀行入行	
						同行香港支店	
取締役	ガラスびん		4 Ant		平成9年9月		
執行役員	カンパニー社 長	石琢	久継	昭和40年4月2日生			47
						ガラスびんカンパニー社長補佐	
					平成16年 6 月 	取締役兼執行役員ガラスびんカンパニー社長	
						就任(現任)	
					昭和41年3月		
					昭和60年6月		
常勤監査役		袴田	勝義	 昭和18年2月19日生	平成元年6月		21
					平成9年6月		
					平成11年6月	取締役副社長就任	
					平成16年6月	常勤監査役就任(現任)	
					昭和24年6月	弁護士登録	
監査役		佐治	良三	大正11年12月3日生	昭和24年6月	佐治法律事務所所長就任(現任)	4
		<u> </u>			平成6年6月	監査役就任(現任)	

役名	職名	氏名	生年月日		略歴	所有株式数 (千株)		
				昭和43年5月	公認会計士登録			
監査役			昭和17年11月30日生	平成9年7月	公認会計士前川三喜男事務所設立			
監直仅		削川 二番五		咱和17年11月30日主	5 哈州17年11月30日生	昭和17年11月30日生 	平成9年7月	税理士登録
				平成14年6月	監査役就任(現任)			
				昭和47年3月	弁護士登録			
監査役	440		│ │ 後藤 武夫	TT 100 /T 4 T 40 T //	昭和54年4月	後藤武夫法律事務所開設		
<u> </u>		後藤 武夫	昭和20年4月10日生	平成13年9月	愛知県公務災害補償認定委員会委員長(現任)	-		
				平成18年6月	監査役就任(現任)			
			計			1,341		

- (注)1.監査役佐治良三、前川三喜男、後藤武夫は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
 - 2. 当社では、意思決定・監督と執行の分離による取締役会の活性化のため、執行役員制度を導入しております。執行役員 は取締役3名及び容器営業担当 澤田久雄、プラスチックカンパニー社長 大西敏行、テクニカルカンパニー社長 下 野富二雄、ガラスびんカンパニー品質保証部長 杉浦一男、アドバンストガラスカンパニー社長 杉浦修、財務部長 加藤明、ガラスびんカンパニー営業本部長兼東部営業部長 小栗信夫の7名、計10名で構成されております。
 - 3. 取締役石塚久継は、取締役会長石塚芳三の長男であります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況】

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、社是に掲げた「誠実」・「努力」・「創造」の精神により、経営理念及び行動指針を定め、企業としての社会的 責任を果たし、役員及び社員の一人ひとりが法令や社内規則を遵守し、高い倫理観を持って企業活動を行っております。こ の「社是」・「経営理念」及び「行動指針」を企業活動の基本として、企業価値の向上を最重要課題として経営を推進して おります。

また、株主をはじめ全てのステークホルダー(利害関係者)を重視し、経営の透明性・健全性・遵法性はもとより、適時 適切な情報開示を通じて企業経営に対する信頼性の向上を得るため、コーポレート・ガバナンスの強化を経営上の最重要課 題の一つとして取り組んでおります。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する施策の状況

会社の機関の内容

イ)取締役・取締役会

当社の取締役は、5名(内代表取締役2名)の構成となっており、定期(三ヶ月に1回)及び必要に応じて随時開催し、法令、定款に定める事項や経営戦略の立案、その他経営上の重要事項の意思決定と業務執行の監督・監視など全社経営機能を担っております。

また、直接的な業務執行責任を明確に分離するため、社内カンパニー制及び執行役員制度を導入し、ガバナンス体制の充実を図っております。

口)監査役・監査役会

当社は、監査役制度を採用しており、監査役3名(内社外監査役2名)の構成となっており、定期(三ヶ月に1回)及び必要に応じて随時監査役会を開催するほか、自らの監査方針及び監査計画に基づき定期的・網羅的に各社内カンパニー・部門及びグループ会社の監査を実施するとともに取締役会・経営会議・カンパニー社長会等の重要会議に出席し、業務の執行状況を監視できる体制としております。

会計監査人との連携につきましては、財務諸表監査の経過報告を定期的に受けるほか、意見交換会を開催するなど会計監査の相当性確保に努めております。

なお、平成18年6月16日の株主総会において、監査体制の強化充実を図るため、社外監査役の1名増員を決議いたしました。

八)経営会議

当社は、全社経営課題に対する報告・討議及び意思統一のため、原則月1回の経営会議を開催しております。

二)カンパニー社長会

当社は、取締役会で決定された重要事項の伝達と各カンパニー及び連結子会社における業務執行状況に関する討議を目的として、原則月1回のカンパニー社長会を開催しております。取締役、執行役員、連結子会社の社長を構成メンバーとし、常勤監査役が参加しております。

ホ)内部監査

当社の内部監査部門は、4名(専任2名、兼任2名)の構成で、事業活動の全般にわたる管理・運営制度及び業務の遂行状況の合法性、合理性について監査し、その結果を取締役会及び監査役会に報告するとともに会計監査人と連携し、業務改善へ助言・提案を行っております。

会社と社外監査役及び監査法人との取引等の利害関係の概要

当社と社外監査役との間に取引等の関係はありません。また、監査法人トーマツ及びその業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき関係はありません。

内部統制システム整備の状況及びリスク管理体制の状況

当社は、業務の効率性・有効性及び財務報告の信頼性を確保し、コンプライアンスを徹底するため、内部統制システムの体制整備を進めております。

- イ)コンプライアンス全体を統括する組織として、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス上の重要事項を 審議し、その結果を取締役会及び監査役会に報告する体制を整備しております。
- 口)経営理念に基づき行動指針やコンプライアンス行動規範を定め、役員及び社員への徹底を図っております。

ハ)リスク管理体制に関しては、リスク管理規定を定め、リスク管理委員会を設置して全社的リスク管理体制を整備する 基本方針を決定しております。また、内部監査部門がリスク管理の状況を監査し、その結果を定期的に取締役会及び監 査役会に報告する体制としております。

(3)役員報酬等の内容

取締役の年間報酬総額 88百万円 監査役の年間報酬総額 20百万円 なお、当社では社外取締役を選任しておりません。

(4)会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、平野善得、内山隆夫の2名であり、監査法人トーマツに所属しております。また、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、会計士補6名、その他4名であります。

(5)監査報酬の内容

当社の監査法人トーマツへの公認会計士法(昭和23年法律第103号)第2条第1項に規定する業務に基づく報酬は17百万円であります。また、上記以外の業務に基づく報酬の内容は、内部統制関連支援業務の委託料3百万円であります。

第5【経理の状況】

1.連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1)当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

ただし、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成16年1月30日内閣府令第5号)附則第2項のただし書きにより、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

ただし、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成16年1月30日内閣府令第5号)附則第2項のただし書きにより、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、証券取引法第193条の2の規定に基づき、前連結会計年度(平成16年3月21日から平成17年3月20日まで)及び当連結会計年度(平成17年3月21日から平成18年3月20日まで)の連結財務諸表並びに第70期(平成16年3月21日から平成17年3月20日まで)及び第71期(平成17年3月21日から平成18年3月20日まで)の財務諸表について、監査法人トーマツにより監査を受けております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

		前連結会計年度 (平成17年3月20日)			重結会計年度 18年3月20日)		
区分	注記 番号	金額(百万円)		構成比 (%)	金額(百万円)		構成比 (%)
(資産の部)							
流動資産							
1 . 現金及び預金			1,394			1,730	
2 . 受取手形及び売掛金	* 5		11,876			11,031	
3 . 有価証券			766			552	
4 . たな卸資産			10,860			12,063	
5 . 繰延税金資産			852			886	
6 . その他			1,386			1,733	
貸倒引当金			45			42	
流動資産合計			27,092	38.4		27,954	39.6
固定資産							
(1) 有形固定資産							
1.建物及び構築物	* 3	17,865			18,329		
減価償却累計額		9,844	8,021		10,206	8,122	
2.機械装置及び運搬具	* 3	51,024			47,628		
減価償却累計額		39,336	11,687		37,826	9,801	
3 . 工具器具及び備品	* 3	6,790			6,633		
減価償却累計額		5,031	1,759		5,104	1,529	
4 . 土地	*3*6		12,577			12,577	
5 . 建設仮勘定			108			132	
有形固定資産合計			34,154	48.4		32,163	45.5
(2)無形固定資産							
1 . ソフトウェア			21			32	
2 . その他	* 9		19			16	
無形固定資産合計			40	0.1		48	0.1
(3) 投資その他の資産							
1.投資有価証券	* 1		8,056			9,729	
2 . 繰延税金資産			539			83	
3 . その他	* 1		688			697	
貸倒引当金			140			155	
投資その他の資産合計			9,144	13.0		10,356	14.6
固定資産合計			43,339	61.5		42,568	60.2
繰延資産							
社債発行費			67			155	
繰延資産合計			67	0.1		155	0.2
資産合計			70,499	100.0		70,678	100.0

		前連結 (平成17 ⁵	前連結会計年度 (平成17年 3 月20日)		当道 (平成	連結会計年度 18年 3 月20日)	1
区分	注記番号	金額(百万	円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)
(負債の部)							, ,
流動負債							
1 . 支払手形及び買掛金	* 5		7,460			8,310	
2 . 短期借入金	* 3		15,590			10,024	
3 . 1年内償還予定の社債			1,154			1,404	
4 . 未払金			1,083			847	
5 . 未払費用			1,852			1,900	
6 . 未払法人税等			74			188	
7. 賞与引当金			646			647	
8 . その他			1,219			1,307	
流動負債合計			29,082	41.2		24,630	34.8
固定負債							
1 . 社債			5,629			9,205	
2 . 長期借入金	* 3		4,843			4,304	
3 . 繰延税金負債			864			1,094	
4 . 再評価に係る繰延税金負 債	* 6		3,477			3,477	
5 . 退職給付引当金			4,184			4,083	
6.役員退職慰労引当金			217			240	
7 . 汚染負荷量引当金			940			875	
8 . 連結調整勘定			141			122	
9 . その他			50			57	
固定負債合計			20,349	28.9		23,461	33.2
負債合計			49,431	70.1		48,091	68.0
(少数株主持分)							
少数株主持分			2,211	3.1		2,393	3.4
(資本の部)							
資本金	* 7		5,911	8.4		5,911	8.4
資本剰余金			4,915	7.0		4,915	7.0
利益剰余金			2,173	3.1		2,581	3.6
土地再評価差額金	* 6		4,505	6.4		4,505	6.4
その他有価証券評価差額 金			1,602	2.3		2,614	3.7
自己株式	* 8		252	0.4		333	0.5
資本合計			18,856	26.8		20,193	28.6
負債、少数株主持分及び 資本合計			70,499	100.0		70,678	100.0

【連結損益計算書】

		(自 平	基結会計年度 成16年 3 月21 成17年 3 月20	目 目)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)				
区分	注記 番号	金額(百	金額(百万円)		金額(百万円)		金額(百万円)		百分比 (%)
売上高			56,087	100.0		58,593	100.0		
売上原価	*1*5		46,643	83.2		48,835	83.3		
売上総利益			9,444	16.8		9,758	16.7		
販売費及び一般管理費	*2*5		8,329	14.8		8,535	14.6		
営業利益			1,115	2.0		1,223	2.1		
営業外収益									
1.受取利息		0			1				
2 . 受取配当金		63			64				
3 . 賃貸料		52			60				
4 . 連結調整勘定償却額		24			26				
5 . 持分法による投資利益		9			100				
6 . その他		69	220	0.4	62	315	0.5		
営業外費用									
1 . 支払利息		381			280				
2 . 手形売却損		21			0				
3 . 社債発行費償却		-			121				
4 . 金型処分損		44			50				
5 . その他		115	562	1.0	104	556	0.9		
経常利益			773	1.4		982	1.7		
特別利益									
1.投資有価証券売却益		62			128				
2 . デリバティブ評価益	* 8	-			190				
3 . 固定資産売却益	* 3	0	62	0.1	0	318	0.5		
特別損失									
1.固定資産売却損	* 7	106			0				
2.固定資産除却損	* 4	357			438				
3 . 投資有価証券評価損		7			13				
4 . その他	* 6	2	473	0.9	23	475	0.8		
税金等調整前当期純利益			362	0.6		826	1.4		
法人税、住民税及び事業税		152			175				
法人税等調整額		202	49	0.1	13	188	0.3		
少数株主利益 (又は少数 株主損失)			0	0.0		89	0.2		
当期純利益			412	0.7		547	0.9		

【連結剰余金計算書】

		(自 平成16	会計年度 年 3 月21日 年 3 月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)	
区分	注記 番号	金額(百	百万円)	金額(百	百万円)
(資本剰余金の部)					
資本剰余金期首残高			4,915		4,915
資本剰余金減少高					
1 . 自己株式処分差損		0	0	-	-
資本剰余金期末残高			4,915		4,915
(利益剰余金の部)					
利益剰余金期首残高			1,904		2,173
利益剰余金増加高					
1. 当期純利益		412	412	547	547
利益剰余金減少高					
1 . 配当金		141		139	
2.役員賞与		1	143	0	140
利益剰余金期末残高			2,173		2,581

【連結キャッシュ・フロー計算書】

		前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前当期純利益		362	826
減価償却費		4,507	4,121
貸倒引当金の増減額(減少:)		47	12
賞与引当金の増減額(減少:)		48	0
退職給付引当金の増減額(減少:)		289	100
役員退職慰労引当金の増減額(減少:)		14	22
汚染負荷量引当金の増減額(減少:)		70	65
受取利息及び受取配当金		64	65
支払利息		381	280
投資有価証券売却損益		61	120
投資有価証券評価損		7	13
固定資産売却損益(益:)		106	0
固定資産除却損		401	488
持分法による投資利益		9	100
売上債権の増減額(増加:)		2,659	1,671
たな卸資産の増減額(増加:)		546	1,202
仕入債務の増減額(減少:)		572	849
割引手形の増減額(減少:)		2,150	826
その他		492	36
小計		6,392	5,841
利息及び配当金の受取額		64	66
利息の支払額		386	269
法人税等の支払額		148	117
営業活動によるキャッシュ・フロー		5,921	5,522

		前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
区分	注記 番号	金額(百万円)	金額(百万円)
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出		55	55
定期預金の払戻による収入		35	10
有価証券の取得による支出		101	-
有価証券の償還による収入		-	101
有形固定資産の取得による支出		2,911	2,918
有形固定資産の売却による収入		351	7
投資有価証券の取得による支出		196	381
投資有価証券の売却による収入		278	634
その他		26	42
投資活動によるキャッシュ・フロー		2,626	2,643
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減額(減少:)		3,003	5,045
長期借入による収入		2,078	1,520
長期借入金の返済による支出		3,484	2,580
社債の発行による収入		2,453	4,819
社債の償還による支出		607	1,204
自己株式の取得による支出		139	67
自己株式の売却による収入		0	-
配当金の支払額		141	139
少数株主への配当金の支払額		4	4
財務活動によるキャッシュ・フロー		2,848	2,700
現金及び現金同等物の増加額(又は減少額)		446	177
現金及び現金同等物期首残高		1,558	2,005
現金及び現金同等物期末残高	* 1	2,005	2,183



前連結会計年度 当連結会計年度 平成16年3月21日 平成17年3月21日 (自 (自 至 平成17年3月20日) 至 平成18年3月20日) 1.連結の範囲に関する事項 (1) 連結子会社の数 6 社 (1) 連結子会社の数 6 社 連結子会社名 連結子会社名 アデリア(株) アデリア(株) 石塚物流サービス(株) 石塚物流サービス(株) ウイストン(株) ウイストン(株) 石硝運輸(株) 石硝運輸(株) 日本パリソン(株) 日本パリソン(株) 久金属工業(株) 久金属工業(株) なお、(有)三晃金属工業所は平成16 年7月30日をもって解散し、同年10 月20日をもって清算結了いたしまし (2) 非連結子会社名 (2) 非連結子会社名 大阪アデリア(株) 大阪アデリア(株) 北洋硝子(株) 北洋硝子(株) (連結の範囲から除いた理由) 石塚玻璃(香港)有限公司 非連結子会社2社は、いずれも (連結の範囲から除いた理由) 小規模会社であり、総資産、売上 石塚玻璃(香港)有限公司は平成17 高、当期純損益 (持分に見合う 年4月15日に設立いたしました。 非連結子会社3社は、いずれも小 額)及び利益剰余金(持分に見合 う額)等のそれぞれの合計額は、 規模会社であり、総資産、売上高、 いずれも連結財務諸表に重要な影 当期純損益(持分に見合う額)及び 響を及ぼしていないため、連結の 利益剰余金 (持分に見合う額)等の それぞれの合計額は、いずれも連結 範囲から除いております。 財務諸表に重要な影響を及ぼしてい ないため、連結の範囲から除いてお ります。 2 . 持分法の適用に関する事 (1) 持分法適用の非連結子会社 なし 同左 (1) 頂 1社 同左 (2) 持分法適用の関連会社 (2) アイピーアイ(株) (3) 持分法を適用していない非連結子会 (3) 持分法を適用していない非連結子会 社 2 社 (大阪アデリア(株)、北洋硝 社3社(大阪アデリア(株)、北洋硝 子(株))及び関連会社2社((株)高 子(株)、石塚玻璃(香港)有限公司) 田製作所、八木運輸(株))は、当期 及び関連会社2社((株)高田製作 純損益(持分に見合う額)及び利益 所、八木運輸(株))は、当期純損益 剰余金(持分に見合う額)等のそれ (持分に見合う額)及び利益剰余金 ぞれの合計額が連結財務諸表に重要 (持分に見合う額)等のそれぞれの な影響を及ぼしていないため、持分 合計額が連結財務諸表に重要な影響 法の適用から除いております。 を及ぼしていないため、持分法の適 用から除いております。 (4) 持分法適用の関連会社については、 (4) 同左 決算日が連結決算日と異なります が、持分法適用会社の事業年度に係 る財務諸表を使用しております。

		T
	前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
3 . 連結子会社の事業年度等	連結子会社のうち、久金属工業(株)の	同左
に関する事項	決算日は12月31日であります。連結財務	
	諸表の作成に当たっては、当該連結子会	
	社の事業年度に係る財務諸表を使用して	
	おります。ただし、連結決算日との間に	
	生じた重要な取引については、連結上必	
	要な調整を行っております。	
4 . 会計処理基準に関する事 項		
(1) 重要な資産の評価基準	 (イ)有価証券	(イ)有価証券
及び評価方法	その他有価証券	同左
	時価のあるもの	
	決算日の市場価格等に基づく	
	時価法(評価差額は全部資本	
	直入法により処理し、売却原	
	価は移動平均法により算定)	
	時価のないもの	
	移動平均法による原価法	
	 (ロ) デリバティブ	(ロ)デリバティブ
	時価法	同左
	 (八)たな卸資産	(八)たな卸資産
	商品・製品・原材料及び仕掛品	同左
	主として総平均法による低価法	. ,
	,	
	受払記録のあるもの	
	主として総平均法による低価	
	法	
	その他のもの	
	主として最終仕入原価法によ	
	る低価法	
 (2)重要な減価償却資産の	 (イ)有形固定資産	 (イ)有形固定資産
減価償却方法	連結財務諸表提出会社	連結財務諸表提出会社
	岩倉工場・東京工場・姫路工場	同左
	は定額法	
	なお、平成12年3月以降取得した	
	溶解炉については、残存価額をゼ	
	口として償却しております。	
	上記以外は定率法	
	連結子会社	連結子会社
	主として定率法	同左
	なお、主な耐用年数は以下のとお	
	りであります。	
	建物 7~50年	
	機械装置 4~15年	
	IMIMULA I IVT	

	前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
	(ロ)無形固定資産 定額法 ただし、自社利用のソフトウェア については、社内における利用可 能期間(5年)に基づく定額法を 採用しております。 (八)長期前払費用 定額法	(口)無形固定資産 同左 (八)長期前払費用 同左
(3) 繰延資産の処理方法	社債発行費 商法施行規則第39条に規定する最長期 間(3年)で均等償却しております。	社債発行費同左
(4) 重要な引当金の計上基 準	(イ)貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備える ため、一般債権については貸倒実 績率により、貸倒懸念債権等特定 の債権については個別に回収可能 性を勘案し、回収不能見込額を計 上しております。 (ロ)賞与引当金 従業員の賞与支給に備えるため、 支給見込額のうち当連結会計年度 に負担すべき額を計上しておりま す。	(イ)貸倒引当金 同左 (ロ)賞与引当金 同左
	(八)退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、 当連結会計年度末における退職に 当連結会がです。 当連結会がです。 当事を 当事を 当事を がして 当事を がして がきます。 ののののので ののののので のののので のののので ののので はいて のののので はいて のののので ののので はいで ののので はいで ののので はいで ののので はいで ののので はいで ののので はいで ののので はいで ののので はいで ののので はい のので はい のので のので のので のので のので のので のので のので のので のの	(八)退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、 当連結会計年度末における退職給 付債務及び年金資産の見込額に基 づき計上しております。なお、会 計基準変更時差異(2,716百万円)に ついては、10年による按分額を費 用処理しております。 数理計算上の差異は、その発生時 の従業員の平均残存勤務期間以内 の一定の年数(10年)による費用 処理することとしております。 (二)役員退職慰労引当金 同左

	前連結会計年度 (自 平成16年 3 月21日 至 平成17年 3 月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
(5)重要な外貨建の資産又 は負債の本邦通貨への 換算の基準 (6)重要なリース取引の処 理方法	(ホ)汚染負荷量引当金 当社が吸収合併した旧(株)アサヒビールパックスが過去に有していた吹田及び関東工場に係る汚染負荷量賦課金の支払に備えるため、将来に亘って発生する汚染負荷量賦課金総額の現在価値を見積り、汚染負荷量引当金として計上しております。 外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。 リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引	(水)汚染負荷量引当金 同左 同左
(7) 重要なヘッジ会計の方 法	に係る方法に準じた会計処理によっております。 1.ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしているため振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。 2.ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針	 1.ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。 2.ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針
	当社は原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、当社及び連結子会社の一部は原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で為替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のと	当社は原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。
	おりであります。	ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ ップ ヘッジ対象…原材料購入代金 ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金

		1
	前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
	3.有効性評価の方法	3.有効性評価の方法
	原油価格に関するスワップ、為替予約	原油価格に関するスワップについて
	については、ヘッジ開始時から有効性	は、ヘッジ開始時から有効性判定時点
	判定時点までの期間において、ヘッジ	までの期間において、ヘッジ対象とへ
	対象とヘッジ手段の相場変動の累計を	ッジ手段の相場変動の累計を比較し、
	比較し、両者の変動額等を基礎にして	両者の変動額等を基礎にして判断して
	判断しております。	おります。
	特例処理によっている金利スワップに	特例処理によっている金利スワップに
	ついては、有効性の評価は省略してお	ついては、有効性の評価は省略してお
	ります。	ります。
(8) その他連結財務諸表作	(イ)消費税の会計処理	(イ)消費税の会計処理
成のための重要な事項	税抜方式によっております。	同左
5 . 連結子会社の資産及び負	連結子会社の資産及び負債の評価につい	同左
債の評価に関する事項	ては、全面時価評価法を採用しておりま	
	す。	
6 . 連結調整勘定の償却に関	連結調整勘定は、5年間で均等償却して	同左
する事項	おります。	
7.利益処分項目等の取扱い	連結剰余金計算書は、連結会社の利益処	同左
に関する事項	分について、連結会計年度中に確定した	
	利益処分に基づいて作成しております。	
8.連結キャッシュ・フロー	連結キャッシュ・フロー計算書における	同左
計算書における資金の範	資金(現金及び現金同等物)は、手許現	
囲	金、随時引き出し可能な預金及び容易に	
	換金可能であり、かつ、価値の変動につ	
	いて僅少なリスクしか負わない取得日か	
	ら3ヶ月以内に償還期限の到来する短期	
	投資からなっております。	

表示方法の変更

前連結会計年度 (自 平成16年 3 月21日 至 平成17年 3 月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
(連結損益計算書)	(連結損益計算書)
1.「連結調整勘定償却額」は、前連結会計年度まで営業外収益の「その他」に含めて表示しておりましたが、営業外収益の総額の100分の10を超えたため区分掲記しました。 なお、前連結会計年度における「連結調整勘定償却額」の金額は1百万円であります。 2.「固定資産売却損」は、前連結会計年度まで特別損失の「その他」に含めて表示しておりましたが、特別損失の総額の100分の10を超えたため区分掲記しました。	「社債発行費償却」は、前連結会計年度まで営業外費用の「その他」に含めて表示しておりましたが、営業外費用の総額の100分の10を超えているため区分掲記しました。 なお、前連結会計年度における「社債発行費償却」の金額は59百万円であります。
なお、前連結会計年度における「固定資産売却 損」の金額は17百万円であります。	

追加情報

前連結会計年度	当連結会計年度
(自 平成16年3月21日	(自 平成17年3月21日
至 平成17年3月20日)	至 平成18年3月20日)
	「地方税法等の一部を改正する法律」(平成15年法律 第9号)が平成15年3月31日に公布され、平成16年4 月1日以後に開始する事業年度より外形標準課税制度 が導入されたことに伴い、当連結会計年度から「法人 事業税における外形標準課税部分の損益計算書上の表 示についての実務上の取扱い」(平成16年2月13日企 業会計基準委員会実務対応報告第12号)に従い法人事 業税の付加価値割及び資本割については、販売費及び 一般管理費に計上しております。 この結果、販売費及び一般管理費が58百万円増加し ております。

<u>次へ</u>

(連結貸借対照表関係)

	前連結会計年度 (平成17年 3 月20日)			当連結会計年度 (平成18年 3 月20日)	
* 1	非連結子会社及び関連会社に対する	るものは次のと	* 1	非連結子会社及び関連会社に対する	るものは次のと
	おりであります。	(百万円)		おりであります。	(百万円)
	投資有価証券(株式)	2,340		投資有価証券(株式)	2,441
				その他(出資金)	4
2	連結子会社以外の会社の金融機関が	からの借入金に	2	連結子会社以外の会社の金融機関が	からの借入金に
	対する債務保証	(百万円)		対する債務保証	(百万円)
	大阪アデリア株式会社	99		大阪アデリア株式会社	93
	株式会社高田製作所	35		株式会社高田製作所	10
	北洋硝子株式会社	10		北洋硝子株式会社	191
	計	144		計	294
	上記保証金額には、共同保証などに	に係る連帯保証		上記保証金額には、共同保証などに	に係る連帯保証
	が35百万円含まれております。			が10百万円含まれております。	
* 3	担保に供している資産		* 3	担保に供している資産	
	工場財団	(百万円)		工場財団	(百万円)
	(土地・建物・構築物・機械装	15,127		建物及び構築物	3,050
	置車両運搬具・工具器具及び備 品)	15, 127		機械装置及び車両運搬具	3,747
	土地・建物	336		工具器具及び備品	959
	担保を付している債務			土地	7,108
	短期借入金	300		計	14,865
	長期借入金 (1年内返済予定額を含む)	4,261		担保を付している債務	200
	社債に対する銀行保証	2,393		短期借入金 長期借入金	300
				^{伎知旧八並} (1年内返済予定額を含む)	2,283
				社債に対する銀行保証	1,659
4	偶発債務	(百万円)	4	偶発債務	(百万円)
	受取手形割引高	835		受取手形割引高	9
				輸出手形割引高	734
				売却手形買戻義務	1,384
* 5	連結会計年度末日満期手形		* 5		
	連結会計年度末日満期手形の会計処	0理について			
	は、手形交換日をもって決済処理を				
	す。なお、当連結会計年度の末日に				
	日であったため、次の連結会計年度 が連結会計年度末残高に含まれても				
	が、注納公司十尺小兆同に占み11(0	-			
	受取手形	(百万円) 135			
	支払手形	16			
	割引手形	63			

前連結会計年度 (平成17年3月20日)

成17年3月20日) (平成18年3月20日)

*6 土地再評価に関する事項

当社は「土地再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び平成13年3月31日の同法律の改正に基づき、事業用土地の再評価を行っております。

なお、評価差額については、当該評価差額に係る 税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として 負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再 評価差額金」として資本の部に計上しております。

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った日

平成14年3月20日

再評価を行った土地の当期 末における時価と再評価後 の帳簿価額との差額

656百万円

- * 7 当社の発行済株式総数は、普通株式36,295,543株であります。
- *8 連結会社が保有する自己株式の数は、普通株式 1,106,260株であります。
- *9 連結調整勘定が4百万円含まれております。

* 6 土地再評価に関する事項

同左

当連結会計年度

再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った日

平成14年3月20日

再評価を行った土地の当期末における時価と再評価後

1,030百万円

の帳簿価額との差額

- *7 当社の発行済株式総数は、普通株式36,295千株で あります。
- *8 連結会社が保有する自己株式の数は、普通株式 1,355千株であります。
- *9 連結調整勘定が1百万円含まれております。

(連結損益計算書関係)

	前連結会計年度			当連結会計年度	
	(自 平成16年3月21日			(自 平成17年3月21日	
* 1	至 平成17年3月20日) 売上原価に含まれるたな卸資産の低		* 1	至 平成18年3月20日) 売上原価に含まれるたな卸資産の低	 価法に其づく
'	22年は一日よれるたる即員座のIII 評価減	(百万円)	'	が上原画に占めれるたる即負産が低い	(百万円)
	a T I 画 // %	307		ат іш <i>п</i> -х	206
* 2	販売費及び一般管理費の主要な費目		* 2	販売費及び一般管理費の主要な費目	
		(百万円)			(百万円)
	運賃	3,177		運賃	3,132
	従業員給与及び賞与	1,660		従業員給与及び賞与	1,600
	賞与引当金繰入額	154		賞与引当金繰入額	154
	退職給付費用	195		退職給付費用	193
	役員退職慰労引当金繰入額	24		役員退職慰労引当金繰入額	22
	減価償却費	151		減価償却費	143
	貸倒引当金繰入額	46		貸倒引当金繰入額	28
* 3	固定資産売却益の内訳	(百万円)	* 3	固定資産売却益の内訳	(百万円)
	機械装置及び運搬具売却益	0		機械装置及び運搬具売却益	0
	計	0		計	0
* 4	固定資産除却損の内訳	(百万円)	* 4	固定資産除却損の内訳	(百万円)
	建物及び構築物除却損	27		建物及び構築物除却損	36
	機械装置及び運搬具除却損	293		機械装置及び運搬具除却損	340
	工具器具及び備品除却損	18		工具器具及び備品除却損	24
	その他の除却損	19		その他の除却損	37
	計	357		計	438
* 5	一般管理費及び当期製造費用に含ま	れる研究開発	* 5	一般管理費及び当期製造費用に含ま	れる研究開発
	費は615百万円であります。			費は584百万円であります。	
* 6	保険解約損1百万円であります。		* 6	投資有価証券売却損7百万円等であ	ります。
* 7	固定資産売却損の内訳	(百万円)	* 7	固定資産売却損の内訳	(百万円)
	建物及び構築物売却損	1		機械装置及び運搬具売却損	0
	土地売却損	105		電話加入権売却損	0
	計	106		計	0
* 8			* 8	従来繰延ヘッジ処理していたものを、	
				終了に伴い時価評価したことに関連	して発生した
				ものであります。	

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

	前連結会計年度 当連結会計年度 (自 平成16年 3 月21日 (自 平成17年 3 月21日 至 平成17年 3 月20日) 至 平成18年 3 月20日)				
* 1	現金及び現金同等物の期末残高の	と連結貸借対照表	* 1	現金及び現金同等物の期末残高	と連結貸借対照表
	に掲記されている科目の金額との	の関係		に掲記されている科目の金額と	の関係
	(平成17	7年3月20日現在)		(平成1	8年3月20日現在)
		(百万円)			(百万円)
	現金及び預金勘定	1,394		現金及び預金勘定	1,730
	有価証券勘定	766		有価証券勘定	552
	預入期間が3ヶ月を超える定 期預金	55		預入期間が3ヶ月を超える定 期預金	100
	株式及び償還期間が3ヶ月を 超える債権等	101		株式及び償還期間が3ヶ月を 超える債権等	-
	現金及び現金同等物	2,005		現金及び現金同等物	2,183

前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの 以外のファイナンス・リース取引(借主側)

1.リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置及び 運搬具	4,906	2,118	2,788
工具器具及び 備品	2,162	1,120	1,041
ソフトウェア	31	3	27
計	7,100	3,242	3,857

2. 未経過リース料期末残高相当額 (百万円)

1 年内	1,069
1 年超	2,910
合計	3,980

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 (百万円)

支払リース料1,460減価償却費相当額1,336支払利息相当額140

4.減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする 定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの 以外のファイナンス・リース取引(借主側)

1.リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置及び 運搬具	4,250	1,941	2,309
工具器具及び 備品	1,610	865	745
ソフトウェア	34	9	25
計	5,895	2,816	3,079

2. 未経過リース料期末残高相当額 (百万円)

1 年内9341 年超2,260合計3,195

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 (百万円)

支払リース料1,207減価償却費相当額1,106支払利息相当額115

4.減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法 減価償却費相当額の算定方法

同左

利息相当額の算定方法

同左

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成17年3月20日現在)

1 . その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計 上額(百万円)	差額(百万円)
	(1) 株式	2,451	4,930	2,478
	(2)債券			
 連結貸借対照表計上	国債・地方債等	-	-	-
額が取得原価を超え	社債	-	-	-
るもの	その他	-	-	-
	(3) その他	40	40	0
	小計	2,491	4,970	2,478
	(1) 株式	145	135	10
	(2)債券			
 連結貸借対照表計上	国債・地方債等	-	-	-
額が取得原価を超え	社債	101	101	0
ないもの	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	246	236	10
合計		2,738	5,207	2,468

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)

売却額(百万円)	売却益の合計 (百万円)	売却損の合計(百万円)
278	62	1

3. 時価のない主な有価証券の内訳

	連結貸借対照表計上額(百万円)	
(1) その他有価証券		
非上場株式	609	
マネー・マネジメント・ファンド	525	
キャッシュ・リザーブ・ファンド	100	
中期国債ファンド	40	

(注) 当連結会計年度において、時価のない株式について7百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、当該株式の発行会社の期末における実質価額が取得原価に比べ50%程度以上低下したときは、回復可能性があると認められる場合を除き、減損処理を行っております。

4. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

	1 年内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5 年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
1 . 債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	101	-	-	-
(3) その他	-	-	-	-
2 . その他	-	-	-	-
合計	101	-	-	-

当連結会計年度(平成18年3月20日現在)

1 . その他有価証券で時価のあるもの

	種類	取得原価(百万円)	連結貸借対照表計 上額(百万円)	差額(百万円)
	(1) 株式	2,228	6,427	4,199
	(2)債券			
 連結貸借対照表計上	国債・地方債等	-	-	-
額が取得原価を超え	社債	-	-	-
るもの	その他	-	-	-
	(3) その他	50	50	0
	小計	2,278	6,477	4,199
	(1) 株式	41	34	6
	(2)債券			
 連結貸借対照表計上	国債・地方債等	-	-	-
額が取得原価を超え	社債	-	-	-
ないもの	その他	100	94	5
	(3) その他	90	90	0
	小計	232	219	12
台	合計		6,697	4,186

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)

売却額(百万円)	売却益の合計 (百万円)	売却損の合計 (百万円)
634	128	7

3.時価のない主な有価証券の内訳

	連結貸借対照表計上額(百万円)	
(1) その他有価証券		
非上場株式	590	
マネー・マネジメント・ファンド	512	
中期国債ファンド	40	

(注) 当連結会計年度において、時価のない株式について13百万円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、当該株式の発行会社の期末における実質価額が取得原価に比べ50%程度以上低下したときは、回復可能性があると認められる場合を除き、減損処理を行っております。

4. その他有価証券のうち満期があるもの及び満期保有目的の債券の今後の償還予定額

	1 年内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5 年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
1 . 債券				
(1) 国債・地方債等	-	-	-	-
(2) 社債	-	-	-	-
(3) その他	-	94	-	-
2 . その他	-	-	-	-
合計	-	94	-	-

(デリバティブ取引関係)

1.取引の状況に関する事項

前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)

取引の内容

当社及び連結子会社の一部が利用しているデリバティブ取引は、原油価格に関するスワップ取引、為替予約取引及び金利スワップ取引であります。

取引に対する取組方針

デリバティブ取引は、将来の原材料購入価格・為替・金利の変動によるリスクをヘッジするためにの み利用しており、投機的な取引は行わない方針であ ります。

取引の利用目的

原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で為替予約取引を、また、変動金利支払の長期借入金について、支払利息を固定化する目的で金利スワップ取引を利用しております。

なお、デリバティブ取引についてはヘッジ会計を行っております。

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしているため振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。

ヘッジ手段と対象

- a.ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…原材料購入代金
- b. ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…原材料輸入による買入債務及び 予定取引
- c. ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金

ヘッジ有効性の評価

原油価格に関するスワップ、為替予約については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

特例処理によっている金利スワップについては、 有効性の評価は省略しております。

当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)

取引の内容

当社及び連結子会社の一部が利用しているデリバティブ取引は、原油価格に関するスワップ取引及び金利スワップ取引であります。

取引に対する取組方針

デリバティブ取引は、将来の原材料購入価格・金利 の変動によるリスクをヘッジするためにのみ利用し ており、投機的な取引は行わない方針であります。

取引の利用目的

原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、変動金利支払の長期借入金について、支払利息を固定化する目的で金利スワップ取引を利用しております。

なお、デリバティブ取引についてはヘッジ会計を行っております。

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。

ヘッジ手段と対象

- a.ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…原材料購入代金
- b.ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金

ヘッジ有効性の評価

原油価格に関するスワップについては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

特例処理によっている金利スワップについては、 有効性の評価は省略しております。 前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日) 当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)

取引に係るリスクの内容

原油価格に関するスワップ取引については、将来の価格変動リスクが、為替予約取引については、将来の為替変動によるリスクが、また、金利スワップ取引については、将来の金利変動によるリスクがあります。なお、原油価格に関するスワップ取引、為替予約取引及び金利スワップ取引の相手方は、信用度の高い金融機関であり、信用リスクはないと判断しております。

取引に係るリスク管理体制

当社においては、デリバティブ取引に係る契約締結 業務は、財務部経理グループが担当しており、当社 稟議規定により、役員合議の後、副社長の了承を得 て、社長決裁を受けております。連結子会社におい ては、取締役会決議を経て経理担当部署が管理して おり、契約締結業務は当社の財務部経理グループが 代行して行っております。

取引に係るリスクの内容

原油価格に関するスワップ取引については、将来の価格変動リスクが、金利スワップ取引については、将来の金利変動によるリスクがあります。なお、原油価格に関するスワップ取引及び金利スワップ取引の相手方は、信用度の高い金融機関であり、信用リスクはないと判断しております。

取引に係るリスク管理体制

同左

2.取引の時価等に関する事項

前連結会計年度(平成17年3月20日現在)

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益の状況

区分	対象物の種類	取引の種類	契約額等 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外 の取引	金利	スワップ取引	1,000	19	19

(注)1.時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

当連結会計年度(平成18年3月20日現在)

デリバティブ取引の契約額等、時価及び評価損益の状況

区分	対象物の種類	取引の種類	契約額等	契約額等の うち1年超	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
	金利	スワップ取引	1,000百万円	1,000百万円	34	34
市場取引以	商品	スワップ取引	200千バレル	140千バレル	306	306
外の取引	商品	カラー取引	200千バレル	140千バレル	468	468
	有価証券	他社株転換条項付社債	100百万円	- 百万円	94	5

(注)1.時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、確定給付型の制度として適格退職年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、当社は従業員の退職に際して、割増退職金を支払う場合があります。

2. 退職給付債務及びその内訳

	前連結会計年度 (平成17年 3 月20日)	当連結会計年度 (平成18年 3 月20日)
(1) 退職給付債務(百万円)	7,955	7,666
(2)年金資産(百万円)	1,850	2,363
(3)未積立退職給付債務(百万円)(1) + (2)	6,104	5,303
(4)会計基準変更時差異の未処理額(百万円)	1,624	1,353
(5)未認識数理計算上の差異(百万円)	296	133
(6) 退職給付引当金(百万円)(3)+(4)+(5)	4,184	4,083

⁽注) 連結子会社は退職給付債務の算定にあたり簡便法を採用しております。

3.退職給付費用の内訳

	前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
退職給付費用		
(1)勤務費用(百万円)	363	349
(2)利息費用(百万円)	163	151
(3)期待運用収益(百万円)	34	35
(4)会計基準変更時差異の費用処理額(百万円)	270	270
(5)数理計算上の差異の費用処理額(百万円)	50	46
(6) 退職給付費用(百万円) (1)+(2)+(3)+(4)+(5)	812	781

⁽注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は(1)勤務費用に計上しております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成17年 3 月20日)	当連結会計年度 (平成18年 3 月20日)
(1) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(2)割引率(%)	2.0	同左
(3)期待運用収益率(%)	2.0	同左
(4)過去勤務債務の額の処理年数	全額を発生年度で処理しております。	同左
(5) 数理計算上の差異の処理年数	10年	同左
	(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により翌連結会計年度から費用処理することとしております。)	
(6)会計基準変更時差異の処理年数	10年	同左

(税効果会計関係) 前連結会計年度		当連結会計年度	
(平成17年3月20日)	の土む原田則	(平成18年3月20日) 1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別	
1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の内訳	の土な原因別	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の内訳	の土な原因別
繰延税金資産	(百万円)	繰延税金資産	(百万円)
繰越欠損金	2,532	繰越欠損金	2,090
退職給付引当金	1,457	退職給付引当金	1,535
減価償却費	599	減価償却費	630
投資有価証券評価損	473	投資有価証券評価損	479
汚染負荷量引当金	381	汚染負荷量引当金	354
賞与引当金	263	賞与引当金	262
製品評価損	163	製品評価損	105
役員退職慰労引当金	88	役員退職慰労引当金	97
会員権評価損	76	会員権評価損	84
未払社会保険料	51	未払社会保険料	53
その他	44	その他	63
繰延税金資産小計	6,131	繰延税金資産小計	5,758
評価性引当額	4,303	評価性引当額	3,982
繰延税金資産合計	1,828	繰延税金資産合計	1,775
繰延税金負債		繰延税金負債	
資産評価差額金	542	資産評価差額金	525
その他有価証券評価差額金	756	その他有価証券評価差額金	1,375
その他	1	その他	1
繰延税金負債計	1,300	操延税金負債計 ————————————————————————————————————	1,899
繰延税金資産の純額	527	繰延税金資産の純額	124
繰延税金資産の純額は、連結貸借対照	表の以下の項	繰延税金資産の純額は、連結貸借対照	表の以下の項
目に含まれております。	(百万円)	目に含まれております。	(百万円)
流動資産 繰延税金資産	852	流動資產 繰延税金資産	886
固定資產 繰延税金資産	539	固定資產 繰延税金資産	83
固定負債 繰延税金負債	864	固定負債 繰延税金負債	1,094
なお、上記のほか再評価に係る繰延税	金負債3,477	なお、上記のほか再評価に係る繰延税	金負債3,477
百万円が計上されております。		百万円が計上されております。	
2.法定実効税率と税効果会計適用後の法	人税等の負担	2.法定実効税率と税効果会計適用後の法	人税等の負担
率との差異の原因となった主な項目別	の内訳	率との差異の原因となった主な項目別	の内訳
	(%)		(%)
法定実効税率	41.9	法定実効税率	40.6
(調整)		(調整)	
評価性引当金の増減	76.3	評価性引当金の増減	17.5
住民税均等割	5.7	住民税均等割	2.5
交際費	13.1	交際費	5.7
受取配当金	1.0	受取配当金	0.3
税率変更による繰延税金資産の修正		還付税額等	1.6
持分法による投資利益	1.0	持分法による投資利益	5.0
その他	0.0	その他	1.5
税効果会計適用後の法人税等の負担	率 13.7	税効果会計適用後の法人税等の負担	上率 22.9

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成16年3月21日 至平成17年3月20日)

	ガラス容器 関連事業 (百万円)	他素材容器 関連事業 (百万円)	その他の事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
. 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	32,840	19,202	4,045	56,087	-	56,087
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	415	372	454	1,242	(1,242)	-
計	33,255	19,574	4,500	57,330	(1,242)	56,087
営業費用	32,482	19,339	4,409	56,230	(1,258)	54,972
営業利益	773	235	90	1,099	15	1,115
. 資産、減価償却費及び資本 的支出						
資産	41,429	18,521	7,183	67,133	3,365	70,499
減価償却費	2,810	1,576	120	4,507	-	4,507
資本的支出	1,464	572	45	2,082	-	2,082

当連結会計年度(自平成17年3月21日 至平成18年3月20日)

	ガラス容器 関連事業 (百万円)	他素材容器 関連事業 (百万円)	その他の事 業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社 (百万円)	連結 (百万円)
. 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	31,885	22,369	4,338	58,593	-	58,593
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	522	407	373	1,304	(1,304)	-
計	32,408	22,777	4,712	59,897	(1,304)	58,593
営業費用	31,738	22,359	4,585	58,684	(1,313)	57,370
営業利益	669	418	126	1,213	9	1,223
. 資産、減価償却費及び資本 的支出						
資産	38,657	19,640	7,478	65,777	4,901	70,678
減価償却費	2,576	1,460	83	4,121	-	4,121
資本的支出	1,713	931	39	2,683	-	2,683

(注)1.事業区分の方法

事業区分は、製品の種類・性質等の類似性及び当社グループの損益集計区分を考慮して決定しております。

2 . 各事業の主要な製品

事業区分	主要製品				
ガラス容器関連事業	洋雑酒壜、ビール壜、飲料水壜、食料調味料壜、コーヒー壜、牛乳壜、 清酒壜、化粧品壜、薬壜、王冠 鉢皿類、コップ				
他素材容器関連事業	紙容器、同容器に係る充填機械 ペットボトル、ペットプリフォーム、輸液用ボトル				
その他の事業	抗菌剤、高強度ガラス 金属キャップ 機器、ガラスブロック				

- 3. 営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。
- 4. 資産のうち、消去又は全社の項目に含めた全社資産(前連結会計年度末3,658百万円、当連結会計年度末6,205百万円)の 主なものは、親会社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であ ります。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度(自平成16年3月21日 至平成17年3月20日) 当社グループは本邦以外の国または地域に存在しないため、該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成17年3月21日 至平成18年3月20日) 当社グループは本邦以外の国または地域に存在しないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前連結会計年度(自平成16年3月21日 至平成17年3月20日) 海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成17年3月21日 至平成18年3月20日) 海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

【関連当事者との取引】

前連結会計年度(自平成16年3月21日 至平成17年3月20日)

子会社等

	A *1.00 = .00		資本金又 事業(事業の一議決権等		関係内容				****
属性	会社等の名 称	住所	は出資金 (百万円)	内容又 は職業	の所有 (被所有) 割合(%)		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)	
関連会社	アイピーアイ株式会社	東京都千代田区	1,100	製造業	(所有) 直接 49.0	兼任 2名	液体用板 紙容器の 購入先	商品仕入	6,624	買掛金	2,004

- (注)1.取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 - 2.取引条件ないし取引条件の決定方針等

アイピーアイ(株)からの液体用板紙容器の購入については、同社から提示された見積りを検討のうえ価格交渉し、購入 価格を決定しております。

当連結会計年度(自平成17年3月21日 至平成18年3月20日) 子会社等

	4 1 2 2 2	資本金又事		議決権等	関係内容			m21.6.65		#n-1-7% 	
属性	会社等の名 称	住所	は出資金 (百万円)	内容又は職業	の所有 (被所有) 割合(%)	役員の 事業上の 兼任等 関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)	
関連会社	アイピーアイ株式会社	東京都千代田区	1,100	製造業	(所有) 直接 49.0	兼任 2名	液体用板 紙容器の 購入先	商品仕入	7,206	買掛金	2,110

- (注)1.取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
 - 2.取引条件ないし取引条件の決定方針等

アイピーアイ(株)からの液体用板紙容器の購入については、同社から提示された見積りを検討のうえ価格交渉し、購入 価格を決定しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
1 株当たり純資産額 535円84銭	1 株当たり純資産額 577円93銭
1株当たり当期純利益金額 11円70銭	1 株当たり当期純利益金額 15円61銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
当期純利益(百万円)	412	547
普通株主に帰属しない金額(百万円)	1	1
(うち利益処分による役員賞与金)	(1)	(1)
普通株式に係る当期純利益(百万円)	411	546
期中平均株式数(株)	35,213,698	35,006,469

(重要な後発事象)

	1				
前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)				
	アイピーアイ株式会社の株式取得(完全子会社化)につ				
	いて(平成18年5月23日開催の取締役会決議)				
	1.株式取得の理由及び目的				
	アイピーアイ株式会社は、昭和51年9月に当社及				
	びInternational Paper Company「以下IP社」の				
	合弁会社として設立され、当社グループの紙容器事				
	業を担っております。				
	昨年7月、IP社が事業再編策の一環としてアイ				
	ピーアイ株式会社も属するビバレッジパッケージ部				
	門を分離し、売却する計画を発表いたしました。				
	当社は、アイピーアイ株式会社の行う紙容器事業				
	は当社グループ経営戦略上重要であると認識し、今				
	回IP社の保有分を譲り受け、現在関連会社である				
	アイピーアイ株式会社の100%子会社化を決定いたし				
	ました。				
	2 . 株式の取得先				
	International Paper Company(米国)				
	3 . 異動する子会社の概要				
	商号 アイピーアイ株式会社				
	代表者 柳本 吉彦				
	所在地 東京都港区芝二丁目13番4号				
	事業内容				
	主な事業所東京・名古屋・大阪・福岡・福				
	崎(兵庫県神崎郡)				
	資本金 1,100百万円				

決算期 12月 最近事業年度(平成17年12月期)における資産、 負債、資本の額及び従業員数 資産合計 6,468百万円 負債合計 1,800百万円 資本合計 4,668百万円 従業員数 154名 最近事業年度(平成17年12月期)における営業の 状況 売上高 7,265百万円 当期純利益 205百万円 4・株式取得の時期 平成18年9月上旬を予定 5・取得する株式の数、取得価額及び取得後の持ち株比率 取得前の所有 1,078千株(所有割合49%) 株式数 取得株式数 1,122千株 取得後の所有 2,200千株(所有割合100%) 株式数	前連結会計年度 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	当連結会計年度 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
取得価額未定	至 平成17年3月20日)	決算期 12月 最近事業年度(平成17年12月期)における資産、 負債、資本の額及び従業員数 資産合計 6,468百万円 負債合計 1,800百万円 資本合計 4,668百万円 従業員数 154名 最近事業年度(平成17年12月期)における営業の 状況 売上高 7,265百万円 当期純利益 205百万円 4.株式取得の時期 平成18年9月上旬を予定 5.取得する株式の数、取得価額及び取得後の持ち株比 率 取得前の所有 1,078千株(所有割合49%) 株式数 取得株式数 1,122千株 取得後の所有 2,200千株(所有割合100%) 株式数

【連結附属明細表】 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	担保	償還期限
石塚硝子株式会社	第1回無担保社債	平成14年7月31日	430 (180)	250 (180)	0.83	なし	平成19年7月31日
石塚硝子株式会社	第2回無担保社債	平成14年 9 月26日	360 (120)	240 (120)	0.35	なし	平成19年 9 月26日
石塚硝子株式会社	第3回無担保社債	平成15年3月31日	175 (50)	125 (50)	0.52	なし	平成20年 3 月31日
石塚硝子株式会社	第4回無担保社債	平成15年 3 月27日	88 (24)	64 (24)	0.32	なし	平成20年 3 月27日
石塚硝子株式会社	第5回無担保社債	平成15年 9 月25日	400 (100)	300 (100)	0.81	なし	平成20年 9 月25日
石塚硝子株式会社	第6回無担保社債	平成15年9月19日	750 (200)	550 (200)	0.75	なし	平成20年 9 月19日
石塚硝子株式会社	第7回無担保社債	平成15年 9 月30日	190 (60)	130 (60)	0.82	なし	平成20年 1 月31日
石塚硝子株式会社	第8回無担保社債	平成15年12月10日	600 (150)	450 (150)	0.21	なし	平成20年12月10日
石塚硝子株式会社	第9回無担保社債	平成16年 9 月30日	1,000 (50)	950 (50)	0.25	なし	平成19年 9 月28日
石塚硝子株式会社	第10回無担保社債	平成16年12月27日	1,500 (-)	1,500 (-)	0.31	なし	平成21年12月25日
石塚硝子株式会社	第11回無担保社債	平成17年3月31日	- (-)	1,500 (-)	0.20	なし	平成27年 3 月31日
石塚硝子株式会社	第12回無担保社債	平成17年 6 月30日	- (-)	1,000 (-)	0.31	なし	平成27年 6 月25日
石塚硝子株式会社	第13回無担保社債	平成17年 6 月30日	- (-)	950 (100)	0.31	なし	平成27年 6 月25日
日本パリソン株式会社	第1回無担保社債	平成15年 3 月27日	410 (60)	350 (60)	1.05	なし	平成23年 3 月25日
日本パリソン株式会社	第2回無担保社債	平成15年9月10日	330 (60)	270 (60)	1.05	なし	平成22年 9 月10日
日本パリソン株式会社	第3回無担保社債	平成15年 9 月19日	550 (100)	450 (100)	0.97	なし	平成22年 9 月17日
日本パリソン株式会社	第4回無担保社債	平成17年 6 月30日	- (-)	530 (-)	0.31	なし	平成22年 6 月25日
日本パリソン株式会社	第5回無担保社債	平成17年12月30日	- (-)	1,000 (150)	0.21	なし	平成24年12月28日
合計	-	-	6,783 (1,154)	10,609 (1,404)	-	-	-

- (注)1.()内書は、1年以内の償還予定額であります。
 - 2.連結決算日後5年内における償還予定額は以下のとおりであります。

1 年以内	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)
1,404	2,154	911	1,970	

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	13,010	7,965	0.87	-
1年以内に返済予定の長期借入金	2,580	2,059	1.79	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	4,843	4,304	1.20	平成19年~23年
その他の有利子負債	-	-	-	-
計	20,434	14,328	-	-

- (注)1.「平均利率」は、借入金等の期末残高に対する加重平均利率であります。
 - 2.長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は次のとおりであります。

区分	1年超2年以内	2年超3年以内	3年超4年以内	4年超5年以内
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)
長期借入金	1,272	287	74	1,590

(2)【その他】

該当事項はありません。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

【貸借刃照表】			第70期			第71期	
	\\ + -	(平成1	7年3月20日)	1++-1511	(平成	18年3月20日)	
区分	注記 番号	金額(百	万円)	構成比	金額(百	百万円)	構成比 (%)
(1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 1 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 1	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	13,100 6,860 2,375 1,694 44,176 35,925 258 211 5,701 4,150	366 4,101 7,826 101 749 5,253 402 38 1,132 92 42 752 235 1,744 766 28 2 23,633 6,239 681 8,250 46 1,551 10,249 23 27,042 8 21 1 31 4,654 3,298 0 - 0 - 20 2 470 41 445 100 8,833 35,907	39.6 45.4 0.1	13,607 7,171 2,309 1,661 41,037 34,104 270 223 5,496 4,142	536 3,223 7,767 - 652 5,031 483 45 1,480 116 2 768 358 678 872 186 11 22,191 6,436 647 6,933 47 1,354 10,249 92 25,760 8 28 1 38 5,830 3,298 0 4 0 42 45 3 - 43 593 150 9,712 35,511 128 128	38.4 44.5 0.1
資産合計			59,589	100.0		57,831	100.0

		(平成	第70期 17年 3 月20日)		(平成:	第71期 18年 3 月20日)	
区分	注記番号	金額(百	万円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)
(負債の部)							
流動負債							
1 . 支払手形	* 7		408			420	
2 . 買掛金	* 1		7,551			7,283	
3 . 短期借入金	* 2		10,600			6,085	
4 . 1年内返済予定の長期借 入金	* 2		1,906			1,460	
5 . 1年内償還予定の社債			934			1,034	
6 . 未払金	* 1		845			791	
7 . 未払費用	* 1		1,704			1,645	
8 . 未払法人税等			17			65	
9 . 未払消費税等			123			37	
10 . 前受金			9			10	
11.預り金			258			312	
12.賞与引当金			544			520	
13.設備関係支払手形	* 1		228			98	
14. 繰延ヘッジ利益			766			872	
流動負債合計			25,897	43.5		20,638	35.7
固定負債							
1 . 社債			4,559			6,975	
2 . 長期借入金	* 2		3,253			3,313	
3 . 繰延税金負債			-			148	
4 . 再評価に係る繰延税金負 債	* 3		3,477			3,477	
5 . 退職給付引当金			3,976			3,856	
6.役員退職慰労引当金			196			211	
7.汚染負荷量引当金			940			875	
8.その他の固定負債			44			52	
固定負債合計			16,447	27.6		18,909	32.7
負債合計			42,344	71.1		39,548	68.4

		(平成:	第70期 17年 3 月20日)		(平成:	第71期 18年 3 月20日)	
区分	注記 番号	金額(百	百万円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)
(資本の部)							
資本金	* 4		5,911	9.9		5,911	10.2
資本剰余金							
1.資本準備金		2,957			2,957		
2 . その他資本剰余金							
(1)資本準備金減少差益		1,957			1,957		
(2)自己株式処分差益		0			0		
資本剰余金合計			4,915	8.2		4,915	8.5
利益剰余金							
1 . 利益準備金		1			1		
2 . 当期未処分利益		679			947		
利益剰余金合計			680	1.1		948	1.6
土地再評価差額金	* 3		4,505	7.6		4,505	7.8
その他有価証券評価差額金			1,378	2.3		2,298	4.0
自己株式	* 5		146	0.2		297	0.5
資本合計			17,244	28.9		18,282	31.6
負債資本合計			59,589	100.0		57,831	100.0

【損益計算書】

【 損益 計算者 】		_	第70期			第71期	
		(自 平)至 平	成16年3月21日 成17年3月20日]	(自 平) 至 平)	成17年 3 月21日 成18年 3 月20日)
区分	注記 番号	金額(百	百万円)	百分比 (%)	金額(百	百万円)	百分比 (%)
売上高							
1.製品売上高		33,650			32,910		
2 . 商品売上高		19,548	53,198	100.0	22,777	55,687	100.0
売上原価							
1 . 商品・製品期首たな卸高		6,511			6,003		
2 . 当期製品製造原価	*1*8	27,088			26,532		
3 . 当期商品仕入高	* 1	18,435			21,375		
合計		52,035			53,911		
4 . 他勘定振替高	* 4	397			298		
5 . 商品・製品期末たな卸高	* 5	6,003	45,634	85.8	5,684	47,928	86.1
売上総利益			7,563	14.2		7,758	13.9
販売費及び一般管理費							
1.販売費	* 6	4,581			4,617		
2 . 一般管理費	*6*8	2,359	6,940	13.0	2,604	7,222	12.9
営業利益			622	1.2		536	1.0
営業外収益							
1 . 受取利息		29			15		
2 . 受取配当金	* 2	65			147		
3 . 賃貸料	* 3	416			427		
4 . 団体保険収益金		3			5		
5 . 受取損害補償金		6			3		
6 . その他		41	563	1.1	41	639	1.1
		_					

		(自 平) 至 平	第70期 成16年 3 月21日 成17年 3 月20日	∃ ∃)	(自 平) 至 平)	第71期 成17年 3 月21日 成18年 3 月20日)
区分	注記 番号	金額(百	万円)	百分比 (%)	金額(百	万円)	百分比 (%)
営業外費用							
1.支払利息		244			137		
2. 社債利息		44			68		
3 . 社債発行費償却		-			89		
4 . 手形売却損		20			14		
5 . 金型処分損		44			47		
6.賃貸料原価		134			128		
7 . その他		85	573	1.1	67	554	1.0
経常利益			612	1.2		621	1.1
特別利益							
1 . 投資有価証券売却益		57			119		
2 . デリバティブ評価益	* 11	-			190		
3 . 貸倒引当金戻入額		2			-		
4 . 固定資産売却益	* 10	-	59	0.1	0	310	0.6
特別損失							
1.固定資産除却損	* 7	314			389		
2 . 投資有価証券評価損		7			13		
3 . その他	* 9	1	324	0.6	22	426	0.8
税引前当期純利益			347	0.7		505	0.9
法人税、住民税及び事業 税		17			17		
法人税等調整額		73	56	0.1	77	94	0.2
当期純利益			404	0.8		411	0.7
前期繰越利益			274			536	
当期未処分利益			679			947	
] [

製造原価明細書

		第70期 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)			(自 平 至 平	第71期 成17年 3 月21日 成18年 3 月20日	
区分	注記番号	金額(百	百万円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)
原材料費			11,725	43.0		11,933	44.7
労務費			5,581	20.5		5,372	20.1
経費							
1.下請作業費		-			1,771		
2 . 外注加工費		931			1,025		
3 . 減価償却費		3,300			2,990		
4 . その他の経費		5,731	9,963	36.5	3,600	9,387	35.2
当期総製造費用			27,269	100.0		26,693	100.0
期首仕掛品たな卸高			35			38	
合計			27,305			26,731	
他勘定振替高	*		177			153	
期末仕掛品たな卸高			38			45	
当期製品製造原価			27,088			26,532	
				1			1

^{*} 他勘定振替高は、固定資産振替高及び仕入商品に係る加工費用振替高並びに試験研究費振替高であります。

- (注)1.原価計算方法は、組別総合原価計算を採用しております。
 - 2.前期まで経費の「その他の経費」に含めて表示していた「下請作業費」は、当期より区分掲記いたしました。なお、前期における「下請作業費」の金額は1,732百万円であります。

【利益処分計算書】

		第70期 株主総会承認日 (平成17年 6 月16日)		第7 株主総会 (平成18年	
区分	注記 番号	金額(百万円)		金額(百	万円)
(当期未処分利益の処分)					
当期未処分利益			679		947
利益処分額					
配当金		142	142	175	175
次期繰越利益			536		771
(その他資本剰余金の処分)					
その他資本剰余金			1,957		1,957
その他資本剰余金次期 繰越高			1,957		1,957

<u>次へ</u>

重要な会計方針

里安な云引刀刺		
項目	第70期 (自 平成16年 3 月21日 至 平成17年 3 月20日)	第71期 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
1 . 有価証券の評価基準及び	子会社株式及び関連会社株式	子会社株式及び関連会社株式
評価方法	移動平均法による原価法	同左
日本 四ノリノム		
	その他有価証券	その他有価証券
	時価のあるもの	同左
	決算日の市場価格等に基づく時価法	
	(評価差額は全部資本直入法により	
	処理し、売却原価は移動平均法によ	
	り算定)	
	時価のないもの	
	移動平均法による原価法	
 2.デリバティブの評価基準	時価法	 同左
2 : グラバグイラの計画型平 及び評価方法	中心 両/公	
		本日、制日、唐林蚁 - 4.地 - 1
3.たな卸資産の評価基準及	商品・製品・原材料・仕掛品	商品・製品・原材料・仕掛品
び評価方法 	総平均法による低価法	同左
	貯蔵品	貯蔵品
	(受払記録のあるもの)	同左
	総平均法による低価法	
	(その他のもの)	
	最終仕入原価法による低価法	
4.固定資産の減価償却の方	有形固定資産	有形固定資産
法	岩倉工場・東京工場・姫路工場	岩倉工場・東京工場・姫路工場
	定額法	同左
	なお、平成12年3月期以降取得した	
	 溶解炉については、残存価額をゼロ	
	として償却しております。	
	上記以外	 上記以外
	定率法	工能级//
		四年
	なお、主な耐用年数は、以下のとお	
	りであります。	
	建物 7~50年	
	機械装置 4~15年	
	無形固定資産	無形固定資産
	定額法	同左
	ただし、自社利用のソフトウェアに	
	ついては、社内における利用可能期	
	間(5年)に基づく定額法を採用し	
	ております。	
	長期前払費用	 長期前払費用
	定額法	同左

	T	
項目	第70期 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	第71期 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
5 . 繰延資産の処理方法	社債発行費	社債発行費
	商法施行規則第39条に規定する最長期	同左
	間(3年)で均等償却しております。	
6.外貨建の資産又は負債の	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為	同左
本邦通貨への換算基準	替相場により円貨に換算し、換算差額は	
	損益として処理しております。	
7 . 引当金の計上基準	貸倒引当金	貸倒引当金
	債権の貸倒による損失に備えるため、	同左
	一般債権については貸倒実績率によ	
	り、貸倒懸念債権等特定の債権につい	
	ては個別に回収可能性を勘案し、回収	
	不能見込額を計上しております。	
	賞与引当金	賞与引当金
	従業員の賞与支払に備えるため、支給	同左
	見込額のうち当期に負担すべき額を計	
	上しております。	
	退職給付引当金	退職給付引当金
	従業員の退職給付に備えるため、当期	従業員の退職給付に備えるため、当期
	末における退職給付債務及び年金資産	末における退職給付債務及び年金資産
	の見込額に基づき、当期末において発	の見込額に基づき、当期末において発
	生していると認められる額を計上して	生していると認められる額を計上して
	おります。なお、会計基準変更時差異	おります。なお、会計基準変更時差異
	(2,540百万円)については、10年に	(2,540百万円)については、10年に
	よる按分額を費用処理しております。	よる按分額を費用処理しております。
	数理計算上の差異は、その発生時の従	数理計算上の差異は、その発生時の従
	業員の平均残存勤務期間以内の一定の	業員の平均残存勤務期間以内の一定の
	年数(10年)による定額法により按分	年数(10年)による定額法により按分
	した額をそれぞれ発生の翌期から費用	した額をそれぞれ発生の翌期から費用
	処理することとしております。	処理することとしております。
	当期に発生した過去勤務債務について	
	は、全額を発生年度に処理しておりま	
	す。	
	役員退職慰労引当金	役員退職慰労引当金
	役員の退職慰労金支払に備えるため、	同左
	役員退職慰労金の内規に基づき計上し	
	ております。	たさんせ自コルム
	汚染負荷量引当金 ***********************************	汚染負荷量引当金
	当社が吸収合併した旧(株)アサヒビー	同左
	ルパックスが過去に有していた吹田及び関東工場に係る活染色符号時間令の	
	び関東工場に係る汚染負荷量賦課金の	
	支払に備えるため、将来に亘って発生 する汚染負荷量賦課金総額の現在価値	
	9 の 7 条負何里賦誅 立総額の現任 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
	上しております。	

8 . リース取引の処理方法	項目	第70期 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	第71期 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 タ・ヘッジ会計の方法 原則として縁延へッジ処理によって行うこととしております。なお、為予約については、接過処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。なが、大学を開発しているを利スワップについては、特例処理によっております。ペッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で人物育子約を、また、変動金利支払の長期借人金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりでおります。 ヘッジ手段・風が地に関するスワップを、また、変動金利支払の長期借人金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段・風が出他に関するスワップ、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ手段・風が出他に関するスワップ、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ手段・通替予約のイッジ対象を入りプースの対象・原材料購入代金、ヘッジ手段・通替予約については、ヘッジ明始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を使用の方法原油価格に関するスワップについては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して	8 11-2取引の処理を注		
マース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。 マージ会計の方法 原則として嫌延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている企利スワップについては、特例処理の要件を満たしている企利スワップについては、特例処理によっております。 ペーッジ手段とへッジ対象、ヘッジ方針原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で高齢子約を、また、変動金利支払の長期借人会について金利変動リスクをヘッジする目的で高かままた。変動金利支払の長期借人会について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。ヘッジ手段・の学手段は以下のとおりであります。ヘッジ手段・の学が対象・ペッジ・手段は以下のとおりであります。ヘッジ手段・原油価格に関するスワップ・ペッジ対象・ペッジ・手段は以下のとおりであります。ヘッジ手段・原油価格に関するスワップ・ペッジ対象・ペッジ手段・一般であります。 オール・データ・データ・データ・データ・データ・データ・データ・データ・データ・データ	6.9一人取引の処理方法		四在
に係る方法に準じた会計処理によっております。 へッジ会計の方法 原則として繰延へッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしているため振生処理を、特例処理の要件を満たしているにもの素性というであります。 へッジ手段とへッジ対象、ヘッジ方針原材料購入に伴う価格を動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で高齢のに伴う為替リスクをヘッジする目的で完油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で金利スワップを制用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段、原油価格に関するスワップ ヘッジ手段、原油価格に関するスワップ ネーッジすを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 コリカスをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 コリカスタをハッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段、原油価格に関するスワップ ヘッジ手段、原油価格に関するスワップ ヘッジ対象、原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ対象、原材料構入代金 ヘッジ対象、原材料構入代金 ヘッジ対象、通常子段 ペッジ対象・通利スワップ ヘッジ対象・通利スワップ ヘッジ対象・通利スワップ ヘッジ対象・通利スワップ ヘッジ対象・通利スワップ ヘッジ対象・通りに対しては、ヘッジ開始時から有効性判定時点まで別関において、ヘッジ対象・ヘッジ対象とヘッジ手段の相準変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にし であります。			
9・ヘッジ会計の方法 ペッジ会計の方法 原則として縁延ヘッジ処理によって行っこととしております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、振当処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。ペッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針原材料職人に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う価格で動リスクをヘッジする目的で原油の格に関するスワップを、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で急者を調けしております。 ・本事生度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段に関するスワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 ・当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段に関するスワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 ・本学生度にヘッジ手段は以下のとおりであります。 ・ヘッジ手段・原油価格に関するスワップ、投機的な取引は行わない方針であります。 ・ペッジ手段・原油価格に関するスワップ、カッジ対象・原材料輸入による買入債務及び予定取引ヘッジ手段・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
9・ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている金利スワップにいては、特例処理によっております。 ハッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針原材料購入に伴う価格を動りスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う価格を動りスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で急着予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段、原油価格に関するスワップ ヘッジ対象・ペッジ手段・原油価格に関するスワップ ヘッジ対象・ルッジ手段・原油価格に関するスワップ ヘッジ対象・ルッジ対象・ルッジ手段・原油価格に関するスワップ ヘッジ対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
原則として繰延ヘッジ処理によって行うこととしております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。ペッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針原材料購入に伴う価格を動リスクをヘッジする目的で原油(に関するスワップを、原材料協人に伴う為替リスクをヘッジする目的で急利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。ペッジ手段に、のする計算を強力を対します。ペッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。ペッジ対象に原油価格に関するスワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。ペッジ手段・原油価格に関するスワップ・ヘッジ対象・ルッジ手段は以下のとおりであります。ペッジ手段・原油価格に関するスワップ・ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ手段・原油価格に関するスワップ・ペッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ手段・原油価格に関するスワップ・ペッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・原材料購入代金、ヘッジ対象・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の・の	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		• ·· · · · · · · · · · · · · · · · · ·
うこととしております。なお、為替予約については、振当処理の要件を満たしているをが振当処理を、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。ペッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で鳥油価格に関するスワップを、原材料輸入金について金利変動リスクをヘッジする目的で高利スカップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段…原油価格に関するスワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段…原油価格に関するスワップへッジ対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9 . ヘッシ会計の方法 		
第については、振当処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針原材料購入に伴う価格を動りスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で為替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップを利用してかり、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップへッジ対象・ハッジ手段・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
世のでは、特例処理によっております。			
要件を満たしている金利スワップについては、特例処理によっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針 原材料購入に伴う価格で動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で為替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ・ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ・ヘッジ対象…原材料購入代金・ヘッジ手段…為対象…原材料購入代金・ヘッジ手段…為対象…原材料購入代金・ヘッジ手段…急利スワップ・ヘッジ対象…原材料購入代金・ヘッジ手段…会利スワップ・ヘッジ対象…信人金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ・ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ・ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ・ヘッジ対象…信人会有効性評価の方法の対象に関するスワップ・ヘッジ対象・ボール・デール・デール・デール・デール・デール・デール・デール・デール・デール・デ			
いては、特例処理によっております。 ヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針 原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替りスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ対象…偏材とよる買入 債務及び予定取引 ヘッジ対象…偏材とよる買入 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
ペッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針 原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で為替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ であります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ へッジ対象とヘッジ手段…のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ へッジ対象…原材料輸入による買入債務及び予定取引ヘッジ対象…原材料輸入による買入債務及び予定取引ヘッジ対象…値入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…値入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ ヘッジ対象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			す。
原材料購入に伴う価格変動リスクをヘッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で急替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 つッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 のッジ手段…原油価格に関するスワップ・あります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ・あります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ・あります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ・カッジ対象…原材料購入代金・ヘッジ手段…金利スワップ・ヘッジ対象…原材料輸入による買入債務及び予定取引・ヘッジ手段…金利スワップ・ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップについては、ヘッジ所というであります。 有効性評価の方法原油価格に関するスワップについては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ所というであります。 有効性評価の方法原油価格に関するスワップについては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		,	
ッジする目的で原油価格に関するスワップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で急替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 へッジ手段…原油価格に関するスワップ へッジ対象…原材料購入代金ヘッジ手段…為替予約ヘッジ対象…原材料輸入による買入債務及び予定取引ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップについては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して			
ップを、原材料輸入に伴う為替リスクをヘッジする目的で為替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ハッジ手段…原油価格に関するスワップ・カッジ対象・…原材料輸入による買入値務及び予定取引へッジ対象・…信材料輸入による買入を対験を、一般が手段・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		原材料購入に伴う価格変動リスクをへ	
をヘッジする目的で為替予約を、また、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップペッジ対象…原材料購入代金ペッジ手段…急替予約ペッジ対象…原材料輸入による買入債務及び予定取引ペッジ対象…係材料輸入による買入債務及び予定取引ペッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップペッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップペッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップについては、ペッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ペッジ対象とヘッジがする目の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		ッジする目的で原油価格に関するスワ	ッジする目的で原油価格に関するスワ
た、変動金利支払の長期借入金について金利変動リスクをヘッジする目的で金利スワップを利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 へッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 へッジが身とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップペッジ対象…原材料購入代金ペッジ手段…急替予約ペッジが身…原材料輸入による買入債務及び予定取引ペッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップペッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップについては、ヘッジ対象…借入金有効性評価の方法原油価格に関するスワップについては、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ対象とヘッジが象とヘッジが象とヘッジが表とヘッジがするとヘッジが表とヘッジが表とヘッジが表とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		ップを、原材料輸入に伴う為替リスク	ップを、また、変動金利支払の長期借
て金利変動リスクをヘッジする目的で 金利スワップを利用しており、投機的 な取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘ ッジ対象とヘッジ手段は以下のとおり であります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワ ップ ヘッジ対象…原材料購入代金 ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップについて は、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッ ジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし 両者の変動額等を基礎にして判断して		をヘッジする目的で為替予約を、ま	入金について金利変動リスクをヘッジ
金利スワップを利用しており、投機的 な取引は行わない方針であります。		た、変動金利支払の長期借入金につい	する目的で金利スワップを利用してお
は取引は行わない方針であります。 当事業年度にヘッジ会計を適用したヘ ッジ対象とヘッジ手段は以下のとおり であります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワ ップ ヘッジ対象…原材料購入代金 ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップについては、ヘッジ開始時から有効性理のの方法 については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とへ		て金利変動リスクをヘッジする目的で	り、投機的な取引は行わない方針であ
当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ対象とヘッジ手段は以下のとおりであります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…原材料購入代金 ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予約については、ヘッジ開始時から有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予約については、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ対象とヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		金利スワップを利用しており、投機的	ります。
であります。		な取引は行わない方針であります。	当事業年度にヘッジ会計を適用したへ
であります。 ヘッジ手段…原油価格に関するスワップ ヘッジ対象…原材料購入代金 ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予約 わいては、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		当事業年度にヘッジ会計を適用したへ	ッジ対象とヘッジ手段は以下のとおり
ペッジ手段…原油価格に関するスワップ ペッジ対象…原材料購入代金 ペッジ手段…為替予約 ペッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ペッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ ペッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ペッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ペッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ペッジ対象とペッジが象とペッジが表述である。		ッジ対象とヘッジ手段は以下のとおり	であります。
ップ ヘッジ対象…原材料購入代金 ヘッジ手段…為替予約 ヘッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッジ別分とヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし ップ ヘッジ対象…原材料購入代金 ヘッジ対象…信入金 ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップについて は、ヘッジ開始時から有効性判定時点 までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		であります。	
ペッジ対象…原材料購入代金 ペッジ手段…為替予約 ペッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ペッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ペッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ペッ ジ対象とペッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし		ヘッジ手段…原油価格に関するスワ	ヘッジ手段…原油価格に関するスワ
ペッジ手段…為替予約 ペッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ペッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ペッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ペッ ジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし		ップ	ップ
ヘッジ対象…原材料輸入による買入 債務及び予定取引 ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッジ開始時から有効性判定時点 までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし		ヘッジ対象…原材料購入代金	ヘッジ対象…原材料購入代金
債務及び予定取引 ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッ ジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし		ヘッジ手段…為替予約	ヘッジ手段…金利スワップ
ヘッジ手段…金利スワップ ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘッジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし		ヘッジ対象…原材料輸入による買入	ヘッジ対象…借入金
ヘッジ対象…借入金 有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッ ジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 を比較し、両者の変動額等を基礎にし		債務及び予定取引	
有効性評価の方法 原油価格に関するスワップ及び為替予 約については、ヘッジ開始時から有効 性判定時点までの期間において、ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象とヘジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		ヘッジ手段…金利スワップ	
原油価格に関するスワップ及び為替予		ヘッジ対象…借入金	
約については、ヘッジ開始時から有効は、ヘッジ開始時から有効性判定時点性判定時点までの期間において、ヘッまでの期間において、ヘッジ対象とヘジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、下者の変動額等を基礎にして判断して		有効性評価の方法	有効性評価の方法
性判定時点までの期間において、ヘッ までの期間において、ヘッジ対象とヘジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 ッジ手段の相場変動の累計を比較し、 で比較し、両者の変動額等を基礎にして判断して		原油価格に関するスワップ及び為替予	原油価格に関するスワップについて
ジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計 ッジ手段の相場変動の累計を比較し、 を比較し、両者の変動額等を基礎にし 両者の変動額等を基礎にして判断して		約については、ヘッジ開始時から有効	は、ヘッジ開始時から有効性判定時点
を比較し、両者の変動額等を基礎にし 両者の変動額等を基礎にして判断して		性判定時点までの期間において、ヘッ	までの期間において、ヘッジ対象とヘ
		ジ対象とヘッジ手段の相場変動の累計	ッジ手段の相場変動の累計を比較し、
— Mullier I — la 10 ± ±		を比較し、両者の変動額等を基礎にし	両者の変動額等を基礎にして判断して
て判断しております。 おります。		て判断しております。	おります。
特例処理によっている金利スワップに特例処理によっている金利スワップに		特例処理によっている金利スワップに	特例処理によっている金利スワップに
ついては、有効性の評価は省略しておりては、有効性の評価は省略しております。		ついては、有効性の評価は省略してお	ついては、有効性の評価は省略してお
ります。 ります。		ります。	ります。
10. その他財務諸表作成のた 消費税等の処理方法 消費税等の処理方法	10. その他財務諸表作成のた	消費税等の処理方法	消費税等の処理方法
めの基本となる重要な事が税抜方式によっております。 同左	めの基本となる重要な事	税抜方式によっております。	同左
項	項		

表示方法の変更

第70期 (自 平成16年 3 月21日 至 平成17年 3 月20日)	第71期 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
(貸借対照表)	
デリバティブ資産は資産総額の100分の1を超えるこ	
ととなったため、当期より区分掲記いたしました。な	
お、前期は流動資産の「その他の流動資産」に19百万	
円含まれております。	
また、繰延ヘッジ利益は負債及び資本の合計額の100	
分の1を超えることとなったため、当期より区分掲記	
いたしました。なお、前期は流動負債の「その他の流	
動負債」に19百万円含まれております。	
	(損益計算書)
	前期まで営業外費用の「その他」に含めて表示して
	おりました「社債発行費償却」は、営業外費用の総額
	の100分の10を超えたため区分掲記しました。
	なお、前期における「社債発行費償却」の金額は41
	百万円であります。

追加情報

第70期 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	第71期 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
	「地方税法等の一部を改正する法律」(平成15年法律第9号)が平成15年3月31日に公布され、平成16年4月1日以後に開始する事業年度より外形標準課税制度が導入されたことに伴い、当期から「法人事業税における外形標準課税部分の損益計算書上の表示についての実務上の取扱い」(平成16年2月13日企業会計基準委員会実務対応報告第12号)に従い法人事業税の付加価値割及び資本割については、販売費及び一般管理費に計上しております。 この結果、販売費及び一般管理費が48百万円増加しております。

であります。

(貸借対照表関係)

第70期 (平成17年 3 月20日)			第71期 (平成18年 3 月20日)		
* 1	関係会社に対するものが次のとおり	含まれており	* 1	関係会社に対するものが次のと	おり含まれており
	ます。	(百万円)		ます。	(百万円)
	売掛金	1,257		売掛金	1,235
	置掛金	3,748		買掛金	3,369
	設備関係支払手形	63			
	未払金及び未払費用	468			
* 2	担保に供している資産		* 2	担保に供している資産	
	工場財団	(百万円)		工場財団	(百万円)
	建物	2,836		建物	2,730
	構築物	270		構築物	257
	機械装置	4,279		機械装置	3,724
	車両運搬具	25		車両運搬具	23
	工具器具及び備品	831		工具器具及び備品	959
	土地	6,883		土地	6,883
	計	15,127		計	14,577
	担保を付している債務			担保を付している債務	
	短期借入金	300		短期借入金	300
	長期借入金 (1年内返済予定額を含む)	4,049		長期借入金 (1年内返済予定額を含む)	2,183
	社債に対する銀行保証	2,393		社債に対する銀行保証	1,659
* 3	土地再評価に関する事項		* 3	土地再評価に関する事項	
	「土地再評価に関する法律」(平成10	年 3 月31日公		同左	
7	布法律第34号)及び平成13年 3 月31日	の同法律の改			
j	正に基づき、事業用土地の再評価を行	っておりま			
す。なお、評価差額については、当該評価差額に係					
	る税金相当額を「再評価に係る繰延税	金負債」とし			
-	て負債の部に計上し、これを控除した	:金額を「土地			
Ī	再評価差額金」として資本の部に計上	しておりま			
-	す。				
	再評価の方法			再評価の方法	
	「土地の再評価に関する法律施行	令」(平成10		「土地の再評価に関する法律	施行令」(平成10
年3月31日公布政令第119号)第2条第三号に定		年3月31日公布政令第119号)第2条第三号に定			
	める固定資産税評価額に合理的な調	整を行って算		める固定資産税評価額に合理的	な調整を行って算
	出しております。			出しております。	
	再評価を行った日 平成	14年3月20日		再評価を行った日	平成14年 3 月20日
	再評価を行った土地の当期 末における時価と再評価後 の帳簿価額との差額	656百万円		再評価を行った土地の当期 末における時価と再評価後 の帳簿価額との差額	1,030百万円
* 4	会社が発行する株式の総数 普通株式	式 80,000千株	* 4	会社が発行する株式の総数 普通	通株式 140,000千株
	発行済株式総数 普通株式	式 36,295千株		発行済株式総数 普通	鱼株式 36,295千株
* 5	自己株式		* 5	自己株式	
1	当社が保有する自己株式の数は普通株	式616,489株	È	当社が保有する自己株式の数は普	通株式1,105千株

であります。

第70期 (平成17年 3 月20日)		第71期 (平成18年 3 月20日)		
6 偶発債務		6 偶発債務		
債務保証		債務保証		
(1) 関係会社の金融機関からの借入金	に対する保証	(1) 関係会社の金融機関からの借入金	に対する保証	
	(百万円)		(百万円)	
大阪アデリア株式会社	99	北洋硝子株式会社	191	
ウイストン株式会社	93	大阪アデリア株式会社	93	
日本パリソン株式会社	41	ウイストン株式会社	93	
株式会社高田製作所	35	株式会社高田製作所	10	
北洋硝子株式会社	10	計	387	
計	278			
保証区分内訳	(百万円)	保証区分内訳	(百万円)	
単独保証	243	単独保証	377	
共同保証	35	共同保証	10	
計	278	計	387	
	(百万円)		(百万円)	
(2)受取手形割引高	779	(2)受取手形割引高	-	
		(3)輸出手形割引高	734	
		(4) 売却手形買戻義務	1,384	
* 7 期末日満期手形		* 7		
期末日満期手形の会計処理については	、手形交換日			
をもって決済処理をしております。な	お、当事業年			
度の末日は金融機関の休日であったた				
日満期手形が期末残高に含まれており 	ます。			
	(百万円)			
受取手形	32			
支払手形	4			
割引手形	51			
8 平成15年6月18日開催の定時株主総会において下		8 平成15年6月18日開催の定時株主総	会において下	
記の欠損てん補を行っております。		記の欠損てん補を行っております。		
	(百万円)		(百万円)	
利益準備金	343	利益準備金	343	
9 配当制限		9 配当制限		
商法施行規則第124条第3号に規定する資産に時価		商法施行規則第124条第3号に規定する資産に時価		
を付したことにより増加した純資産額	は5,864百万	を付したことにより増加した純資産額	iは6,925百万	
円であります。		円であります。		

	92 百万円) 393 销費高 百万円) 183
及び商品仕入高	92 37 393
このうち関係会社受取配当金 11 このうち関係会社受取配当金 *3 賃貸料 (百万円) *3 賃貸料 (百万円) *4 他勘定振替高 6 局品・製品のたな卸減耗、見本等の自家消費高 *4 他勘定振替高 商品・製品のたな卸減耗、見本等の自家消費高 *5 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) 307 *6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (百万円) *6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (「販売費) (「販	92 第万円) 393 第一 第
* 3 賃貸料 (百万円) このうち関係会社賃貸料 387 * 4 他勘定振替高 商品・製品のたな卸減耗、見本等の自家消費高 * 5 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) 307 * 6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (百万円) 運賃 2,792 従業員給料及び賞与 556 賞与引当金繰入額 55	百万円) 393 销費高 百万円) 183 会額 百万円)
このうち関係会社賃貸料 387 * 4 他勘定振替高 商品・製品のたな卸減耗、見本等の自家消費高 * 4 他勘定振替高 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) 307 * 6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (百万円) 運賃 2,792 従業員給料及び賞与 556 賞与引当金繰入額 55 退職給付費用 77 賃借料 305 支払手数料 213 減価償却費 1 (一般管理費) 運賃 169 従業員給料及び賞与 667 賞与引当金繰入額 70 退職給付費用 95 役員退職配労引当金繰入額 20 賃借料 225 下請作業費 274 減価償却費 115 * 4 他勘定振替高 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) * 6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び3 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (可 (販売費) (可 (下表) (393 普費高 百万円) 183 全額 百万円)
このうち関係会社賃貸料 387 * 4 他勘定振替高 商品・製品のたな卸減耗、見本等の自家消費高 * 4 他勘定振替高 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) 307 * 6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (百万円) 運賃 2,792 従業員給料及び賞与 556 賞与引当金繰入額 55 退職給付費用 77 賃借料 305 支払手数料 213 減価償却費 1 (一般管理費) 運賃 169 従業員給料及び賞与 667 賞与引当金繰入額 70 退職給付費用 95 役員退職配労引当金繰入額 20 賃借料 225 下請作業費 274 減価償却費 115 * 4 他勘定振替高 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) * 6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び3 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (項 (販売費) (可 (販売費) (可 (下表) (393 普費高 百万円) 183 全額 百万円)
* 4 他勘定振替高 商品・製品のたな卸減耗、見本等の自家消費高 * 5 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) 307 * 6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (百万円) 運賃 2,792 従業員給料及び賞与 556 賞与引当金繰入額 55 退職給付費用 77 賃借料 305 支払手数料 213 減価償却費 1 (一般管理費) 運賃 169 従業員給料及び賞与 667 賞与引当金繰入額 70 退職給付費用 95 役員退職別労引当金繰入額 20 賃借料 225 下請作業費 274 減価償却費 115 * 4 他勘定振替高 商品・製品の低価法に基づく評価減 (京	销費高 百万円) 183 全額 百万円)
商品・製品のたな卸減耗、見本等の自家消費高 *5 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) 307 *6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (百万円) 運賃 2,792 従業員給料及び賞与 556 賞与引当金繰入額 55 退職給付費用 77 賃借料 305 支払手数料 213 減価償却費 1 (一般管理費) 運賃 169 従業員給料及び賞与 667 賞与引当金繰入額 70 退職給付費用 95 以職給付費用 95 役員退職慰労引当金繰入額 20 賃借料 225 下請作業費 274 減価償却費 100	百万円) 183 全額 百万円)
* 5 商品・製品の低価法に基づく評価減 (百万円) 307 * 6 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額 (販売費) (百万円) 運賃 2,792 (従業員給料及び賞与 556 賞与引当金繰入額 55	百万円) 183 全額 百万円)
(販売費) (百万円) 運賃 2,792 運賃 2, 従業員給料及び賞与 556 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 55 賞与引当金繰入額 退職給付費用 77 退職給付費用 賃借料 305 賃借料 支払手数料 213 支払手数料 減価償却費 1 減価償却費 (一般管理費) 運賃 (一般管理費) 運賃 169 運賃 従業員給料及び賞与 667 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 70 賞与引当金繰入額 退職給付費用 95 退職給付費用 役員退職慰労引当金繰入額 20 役員退職慰労引当金繰入額 賃借料 225 賃借料 下請作業費 274 下請作業費 減価償却費	万円)
運賃 2,792 運賃 2, 従業員給料及び賞与 556 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 退職給付費用 77 退職給付費用 退職給付費用 支払手数料 支払手数料 213 支払手数料 減価償却費 (一般管理費) 運賃 (一般管理費) 運賃 (一般管理費) 運賃 従業員給料及び賞与 667 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 退職給付費用 95 退職給付費用 投員退職慰労引当金繰入額 賃借料 225 賃借料 下請作業費 274 下請作業費 減価償却費 115 減価償却費	-
運賃 2,792 運賃 2, 従業員給料及び賞与 556 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 退職給付費用 77 退職給付費用 退職給付費用 賃借料 支払手数料 213 支払手数料 減価償却費 (一般管理費) 運賃 (一般管理費) 運賃 (一般管理費) 運賃 従業員給料及び賞与 資与引当金繰入額 第 資与引当金繰入額 質与引当金繰入額 関場合け費用 投員退職慰労引当金繰入額 投員退職慰労引当金繰入額 投員退職慰労引当金繰入額 資借料 大請作業費 資借料 下請作業費 方 下請作業費 方 下請作業費 方 下請作業費 減価償却費 115 減価償却費 1 2	-
賞与引当金繰入額 55 賞与引当金繰入額 退職給付費用 77 退職給付費用 賃借料 305 賃借料 支払手数料 213 支払手数料 減価償却費 1 減価償却費 (一般管理費) (一般管理費) 運賃 従業員給料及び賞与 667 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 70 賞与引当金繰入額 退職給付費用 95 退職給付費用 役員退職慰労引当金繰入額 20 役員退職慰労引当金繰入額 賃借料 225 賃借料 下請作業費 274 下請作業費 減価償却費 115 減価償却費	002
退職給付費用 77 退職給付費用 505 賃借料 505 賃借料 505 5払手数料 213 支払手数料 減価償却費 1 減価償却費 (一般管理費) 運賃 (一般管理費) 運賃 (ご業員給料及び賞与 667 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 70 賞与引当金繰入額 退職給付費用 95 退職給付費用 95 以職給付費用 05 投員退職慰労引当金繰入額 5 賃借料 225 賃借料 7 清作業費 274 下請作業費 減価償却費 115 減価償却費	565
賃借料305賃借料支払手数料213支払手数料減価償却費1減価償却費(一般管理費)運賃(一般管理費)運賃169運賃従業員給料及び賞与667従業員給料及び賞与賞与引当金繰入額70賞与引当金繰入額退職給付費用95退職給付費用役員退職慰労引当金繰入額20役員退職慰労引当金繰入額賃借料225賃借料下請作業費274下請作業費減価償却費115減価償却費	55
支払手数料 213 支払手数料 減価償却費 1 減価償却費 (一般管理費) (一般管理費) 運賃 従業員給料及び賞与 667 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 70 賞与引当金繰入額 退職給付費用 95 退職給付費用 役員退職慰労引当金繰入額 20 役員退職慰労引当金繰入額 賃借料 225 賃借料 下請作業費 274 下請作業費 減価償却費 115 減価償却費	76
減価償却費 1 減価償却費 (一般管理費) 運賃 (一般管理費) 運賃 169 運賃 従業員給料及び賞与 667 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 70 賞与引当金繰入額 退職給付費用 95 退職給付費用 役員退職慰労引当金繰入額 20 役員退職慰労引当金繰入額 賃借料 225 賃借料 下請作業費 274 下請作業費 減価償却費 115 減価償却費	194
(一般管理費)(一般管理費)運賃169従業員給料及び賞与667賞与引当金繰入額70退職給付費用95役員退職慰労引当金繰入額20賃借料225下請作業費274減価償却費115 (一般管理費) 運賃 従業員給料及び賞与 賞与引当金繰入額 以職給付費用 役員退職慰労引当金繰入額 賃借料 下請作業費 減価償却費 減価償却費	304 1
運賃169運賃従業員給料及び賞与667従業員給料及び賞与賞与引当金繰入額70賞与引当金繰入額退職給付費用95退職給付費用役員退職慰労引当金繰入額20役員退職慰労引当金繰入額賃借料225賃借料下請作業費274下請作業費減価償却費115減価償却費	1
従業員給料及び賞与667従業員給料及び賞与賞与引当金繰入額70賞与引当金繰入額退職給付費用95退職給付費用役員退職慰労引当金繰入額20役員退職慰労引当金繰入額賃借料225賃借料下請作業費274下請作業費減価償却費115減価償却費	248
退職給付費用 95 退職給付費用 役員退職慰労引当金繰入額 20 役員退職慰労引当金繰入額 賃借料 225 賃借料 下請作業費 274 下請作業費 減価償却費 115 減価償却費	600
役員退職慰労引当金繰入額20役員退職慰労引当金繰入額賃借料225賃借料下請作業費274下請作業費減価償却費115減価償却費	63
賃借料225賃借料下請作業費274下請作業費減価償却費115減価償却費	102
下請作業費 274 下請作業費 115 減価償却費	14
減価償却費 115 減価償却費	319
	293
*7 固定資産除却損の内訳 (百万円) │*7 固定資産除却損の内訳 (百	110
	万円)
工場建物除却損 12 建物除却損	13
工場機械装置除却損 282 構築物除却損	22
工具器具及び備品除却損 17 機械装置除却損 ホール・カース ボール	302
撤去費用等 3 車両運搬具除却損	0
計 工具器具及び備品除却損 撤去費用等	14 37
計	389
"'	
^ 8 一般官理質及びヨ期製垣賃用に含まれる研充開発 ^ 8 一般官理質及びヨ期製垣賃用に含まれる情 費は533百万円であります。	ルカ田光
*9 保険解約損1百万円等であります。	
*10 固定資産売却益の内訳	<u> </u>
車両運搬具売却益	r.
計	r. 0
 * 11 従来繰延ヘッジ処理していたものを、ヘッ	
終了に伴い時価評価したことに関連して多 ものであります。	0

第70期 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの 以外のファイナンス・リース取引

1.リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置	1,314	365	949
工具器具及び 備品	150	101	49
ソフトウェア	31	3	27
計	1,496	469	1,026

2. 未経過リース料期末残高相当額

1 年内1971 年超864合計1,061

(百万円)

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 (百万円)

支払リース料243減価償却費相当額211支払利息相当額43

4.減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5. 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分は利息法によっております。

第71期 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの 以外のファイナンス・リース取引

1.リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当 額及び期末残高相当額

	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額相 当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)
機械装置	1,318	547	771
工具器具及び 備品	65	31	34
ソフトウェア	34	9	25
計	1,418	588	830

2.未経過リース料期末残高相当額 (百万円)1年内 2031年超 667

3. 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 (百万円)

870

支払リース料234減価償却費相当額203支払利息相当額36

4.減価償却費相当額の算定方法

同左

5. 利息相当額の算定方法

合計

同左

次へ

(有価証券関係)

前事業年度(自平成16年3月21日 至平成17年3月20日)及び当事業年度(自平成17年3月21日 至平成18年3月20日)における子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(税効果会計関係)

第70期 (自 平成16年 3 月21日 至 平成17年 3 月20日)		第71期 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)	
1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別		1 . 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の	の主な原因別
の内訳		の内訳	
繰延税金資産	(百万円)	繰延税金資産	(百万円)
繰越欠損金	2,530	繰越欠損金	2,090
退職給付引当金	1,380	退職給付引当金	1,448
減価償却費	592	減価償却費	622
投資有価証券評価損	473	投資有価証券評価損	479
汚染負荷量引当金	381	汚染負荷量引当金	354
賞与引当金	220	賞与引当金	211
製品評価損	157	製品評価損	95
役員退職慰労引当金	79	役員退職慰労引当金	85
会員権評価損	76	会員権評価損	84
その他	44	その他	63
— 繰延税金資産小計	5,937	—— 繰延税金資産小計	5,536
評価性引当額	4,303	評価性引当額	3,982
— 繰延税金資産合計	1,634	—— 繰延税金資産合計	1,554
繰延税金負債		繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	411	その他有価証券評価差額金	934
— 繰延税金負債合計	411	—— 繰延税金負債合計	934
	1,222		620
なお、上記のほか再評価に係る繰延税	金負債3,477	なお、上記のほか再評価に係る繰延税:	金負債3,477
百万円が計上されております。		百万円が計上されております。	
2 . 法定実効税率と税効果会計適用後の法	人税等の負担	2.法定実効税率と税効果会計適用後の法。	人税等の負担
率との差異の原因となった主な項目別	の内訳	率との差異の原因となった主な項目別の	の内訳
	(%)		(%)
法定実効税率	41.9	法定実効税率	40.6
(調整)		(調整)	
評価性引当金の増減	79.5	評価性引当金の増減	25.4
住民税均等割	5.0	住民税均等割	3.5
交際費	12.0	交際費	8.1
受取配当金	1.0	受取配当金	7.5
税率変更による繰延税金資産の修正		その他	0.6
その他	1.3	税効果会計適用後の法人税等の負担3 	率 18.7
税効果会計適用後の法人税等の負担	!率 16.2		

(1株当たり情報)

第70期 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	第71期 (自 平成17年3月21日 至 平成18年3月20日)
1 株当たり純資産額 483円33銭	1 株当たり純資産額 519円53銭
1株当たり当期純利益 11円33銭	1株当たり当期純利益 11円65銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第70期 (自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)	第71期 (自 平成17年 3 月21日 至 平成18年 3 月20日)
当期純利益(百万円)	404	411
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(百万円)	404	411
期中平均株式数(株)	35,700,037	35,291,726

(重要な後発事象)

第70期	第71期
(自 平成16年 3 月21日	(自 平成17年3月21日
至 平成17年 3 月20日)	至 平成18年3月20日)
	連結財務諸表における重要な後発事象をご参照下さい。

【附属明細表】 【有価証券明細表】 【株式】

	銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)
		株式会社みずほフィナンシャルグループ	1,208	1,118
		アサヒビール株式会社	336,324	570
		株式会社みずほフィナンシャルグループ優先株	500	500
		カゴメ株式会社	248,572	396
		新東工業株式会社	247,071	388
仇姿去価缸类	その他	明治乳業株式会社	523,370	372
投資有価証券	有価証券	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	212	358
		愛知時計電機株式会社	611,000	289
		株式会社パイロットコーポレーション	471	281
		東洋紡績株式会社	700,000	250
		その他 2 9 銘柄	956,549	1,209
		計	3,625,279	5,735

【その他】

	種類及び銘柄		額面 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)
投資有価証券	その他	他社株転換条項付社債	100	94
双 贯	有価証券	計	100	94

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高(百万円)	当期増加額(百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額(百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	13,100	611	103	13,607	7,171	400	6,436
構築物	2,375	67	134	2,309	1,661	80	647
機械装置	44,176	715	3,853	41,037	34,104	1,706	6,933
車両運搬具	258	19	6	270	223	17	47
工具器具及び備品	5,701	859	1,065	5,496	4,142	994	1,354
土地	10,249	-	-	10,249	-	-	10,249
建設仮勘定	23	507	437	92	-	-	92
有形固定資産計	75,885	2,780	5,602	73,063	47,303	3,199	25,760
無形固定資産							
電話加入権	-	-	-	8	-	-	8
ソフトウェア	-	-	-	66	37	9	28
その他	-	-	-	67	66	0	1
無形固定資産計	-	-	-	142	104	9	38
長期前払費用	20	1	0	21	18	1	3
繰延資産							
社債発行費	125	169	24	269	141	89	128
繰延資産計	125	169	24	269	141	89	128

(注)1. 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

建物東京工場PET倉庫412百万円機械装置岩倉・東京・姫路工場壜・食器・PET生産設備681百万円工具器具及び備品 岩倉・東京・姫路工場金型841百万円

2. 当期減少額の主なものは次のとおりであります。

機械装置 岩倉・東京・姫路工場 壜・食器生産設備 3,031 百万円 工具器具及び備品 岩倉・東京・姫路工場 金型 958 百万円

3.無形固定資産の金額が、資産の総額の百分の一以下であるため「前期末残高」「当期増加額」「当期減少額」の記載を省略いたしました。

【資本金等明細表】

区分			前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
資本金(百万円])		5,911	-	-	5,911
	普通株式(注)	(千株)	(36,295)	(-)	(-)	(36,295)
資本金のうち	普通株式	(百万円)	5,911	-	-	5,911
既発行株式	計	(千株)	(36,295)	(-)	(-)	(36,295)
	計	(百万円)	5,911	-	-	5,911
	(資本準備金)					
	株式払込剰余金	(百万円)	2,955	-	-	2,955
 資本準備金及	合併差益	(百万円)	2	-	-	2
資本学権並及 びその他資本 剰余金	(その他資本剰余金)					
米小元並	資本準備金減少差益	(百万円)	1,957	-	-	1,957
	自己株式処分差益	(百万円)	0	-	-	0
	計	(百万円)	4,915	-	-	4,915
	(利益準備金)	(百万円)	1	-	-	1
利益準備金及 び任意積立金	(任意積立金)	(百万円)	-	-	-	-
	計	(百万円)	1	-	-	1

⁽注) 当期末における自己株式数は1,105,427株であります。

【引当金明細表】

区分	前期末残高(百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	103	66	8	-	162
賞与引当金	544	520	544	-	520
役員退職慰労引当金	196	14	-	-	211
汚染負荷量引当金	940	4	70	-	875

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	13
預金	
当座預金	141
普通預金	20
通知預金	250
別段預金	111
小計	523
合計	536

受取手形

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
小林硝子株式会社	460
浅井硝子株式会社	455
中央硝子株式会社	269
株式会社日本サンガリアベバレッジカンパニー	220
丸藤ガラス株式会社	203
その他	1,613
合計	3,223

(口)期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成18年 4 月	508
5月	553
6月	1,310
7月	725
8月	96
9月	27
10月以降	1
合計	3,223

売掛金

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
アデリア株式会社	1,203
日本ミルクコミュニティ株式会社	660
アサヒビール株式会社	603
ニッカウヰスキー株式会社	411
小林硝子株式会社	393
その他	4,493
合計	7,767

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

前期繰越高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	次期繰越高 (百万円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	(C) (A) + (B) × 100	(A) + (D) 2 (B) 365
7,826	58,471	58,530	7,767	88.3	48.7

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記当期発生高には消費税等が含まれております。

商品

品名	金額(百万円)
墁	313
食器	299
その他	39
合計	652

製品

品名	金額(百万円)
壜	2,644
食器	1,569
その他	818
合計	5,031

原材料

品名	金額(百万円)
原料	447
燃料	35
合計	483

仕掛品

品名	金額 (百万円)
仕掛品	45
合計	45

貯蔵品

品名	金額(百万円)
補助材料	1,445
荷造材料	35
合計	1,480

関係会社株式

銘柄	金額(百万円)	
(子会社株式)		
久金属工業株式会社	2,295	
日本パリソン株式会社	225	
ウイストン株式会社	100	
アデリア株式会社	50	
大阪アデリア株式会社	50	
北洋硝子株式会社	37	
石硝運輸株式会社	10	
石塚物流サービス株式会社	5	
(関連会社株式)		
アイピーアイ株式会社	516	
八木運輸株式会社	5	
株式会社高田製作所	4	
合計	3,298	

支払手形

(イ)相手先別内訳

相手先	金額(百万円)
藤徳紙器株式会社	233
株式会社田中ガラス	45
共立金属工業株式会社	18
株式会社ヤマーズインターナショナル	17
トークエンジニアリング株式会社	15
その他	90
合計	420

(口)期日別内訳

期日別	金額(百万円)
平成18年 4 月	108
5月	99
6月	84
7月	66
8月	61
合計	420

金掛買

相手先	金額(百万円)
アイピーアイ株式会社	2,110
日本パリソン株式会社	1,068
株式会社ケミック	218
コスモ石油株式会社	186
出光興産株式会社	170
その他	3,527
合計	7,283

短期借入金

借入先	金額(百万円)
株式会社滋賀銀行	1,780
株式会社大垣共立銀行	1,140
株式会社三菱東京UFJ銀行	925
株式会社中京銀行	870
株式会社みずほ銀行	460
みずほ信託銀行株式会社	460
株式会社三井住友銀行	450
合計	6,085

社債

区分	金額(百万円)
社債	6,975
合計	6,975

(注) 内訳については、1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 連結附属明細表 社債明細表に記載しております。

長期借入金

借入先	金額(百万円)	
株式会社三井住友銀行	1,593	
愛知県信用農業協同組合連合会	1,000	
明治安田生命保険相互会社	158	
みずほ信託銀行株式会社	128	
株式会社みずほ銀行	105	
第一生命保険相互会社	99	
株式会社滋賀銀行	68	
株式会社中京銀行	55	
住友生命保険相互会社	54	
株式会社大垣共立銀行	53	
合計	3,313	

退職給付引当金

区分	金額 (百万円)
退職給付引当金	3,856
合計	3,856

再評価に係る繰延税金負債

区分	金額 (百万円)
再評価に係る繰延税金負債	3,477
合計	3,477

(注) 土地再評価に係るものであります。

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

決算期	3月20日	
定時株主総会	6月中(6月20日まで)	
基準日	3月20日	
株券の種類	10,000株券、5,000株券、1,000株券、500株券、100株券、50株券、10株券、 5 株券、 1 株券、100株券未満の表示株券	
中間配当基準日	定めなし	
1 単元の株式数	1,000株	
株式の名義書換え		
取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目 2 番 1 号 みずほ信託銀行株式会社	
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店	
名義書換手数料	無料	
新券交付手数料	無料	
株券喪失登録に伴う手 数料	1.喪失登録 1件につき8,600円	
	2 . 喪失登録株券 1 枚につき 500円	
単元未満株式の買取り・ 買増し		
取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目 2 番 1 号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目 2 番 1 号 みずほ信託銀行株式会社	
取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店	
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額	
公告掲載方法	日本経済新聞	
株主に対する特典	なし	

第7【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度(第70期)(自 平成16年3月21日 至 平成17年3月20日)平成17年6月17日関東財務局長に提出

(2) 半期報告書

(第71期中)(自 平成17年3月21日 至 平成17年9月20日)平成17年12月16日関東財務局長に提出

(3) 臨時報告書

平成18年5月26日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 3 号 (特定子会社の異動)の規定に基づき、臨時報告書を提出するものであります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

平成17年6月16日

石塚硝子株式会社

取締役会 御中

監査法人トーマツ

代表社員 関与社員 公認会計士 松井 夏樹 印

関与社員 公認会計士 内山 隆夫 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている 石塚硝子株式会社の平成16年3月21日から平成17年3月20日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわ ち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結剰余金計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表につ いて監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表 に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、 当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試 査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も 含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のた めの合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、 石塚硝子株式会社及び連結子会社の平成17年3月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度 の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は関与社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

⁽注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会 社が別途保管しております。

平成18年6月16日

石塚硝子株式会社

取締役会 御中

監査法人トーマツ

 指定社員
業務執行社員
 公認会計士
 平野
 善得
 印

 指定社員
業務執行社員
 公認会計士
 内山
 隆夫
 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている石塚硝子株式会社の平成17年3月21日から平成18年3月20日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結剰余金計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、 当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試 査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も 含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のた めの合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、 石塚硝子株式会社及び連結子会社の平成18年3月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度 の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、連結財務諸表提出会社は平成18年5月23日開催の取締役会において、関連会社であるアイピーアイ株式会社の株式を追加取得し、100%子会社化することを決議している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

⁽注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会 社が別途保管しております。

平成17年6月16日

石塚硝子株式会社

取締役会 御中

監査法人トーマツ

代表社員 関与社員 公認会計士 松井 夏樹 印

関与社員 公認会計士 内山 隆夫 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている 石塚硝子株式会社の平成16年3月21日から平成17年3月20日までの第70期事業年度の財務諸表、すなわ ち、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経 営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、 当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を 基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め 全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理 的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、石塚硝子株式会社の平成17年3月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は関与社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

⁽注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会 社が別途保管しております。

平成18年6月16日

石塚硝子株式会社

取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員 業務執行社員 指定社員 業務執行社員 公認会計士 内山 隆夫 印

当監査法人は、証券取引法第193条の2の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている 石塚硝子株式会社の平成17年3月21日から平成18年3月20日までの第71期事業年度の財務諸表、すなわ ち、貸借対照表、損益計算書、利益処分計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経 営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、 当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を 基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め 全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理 的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、石塚硝子株式会社の平成18年3月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

⁽注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は有価証券報告書提出会 社が別途保管しております。